

研究報告 第 4 2 5 号

生活を豊かにするための SNS 利用に関する指導法の研究

平成 2 9 年 3 月

千葉県総合教育センター

序

内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査」(調査対象は満10歳から満17歳までの青少年)によると、平成27年度の携帯電話・スマートフォンの利用率は68.3%であり、利用割合が年々増加しています。また、ソーシャルネットワーキングサービス(Social Networking Service, 以下 SNS)は、インターネットを利用した情報発信・交流ツールとして社会的な認知を得ており、近年では、LINE や Twitter といったサービスを中心に児童生徒による利用率も増加し、SNS 上のトラブルなど情報化の進展に伴う新たな問題が生じています。

次期学習指導要領では、「総則」において、「各学校においては、児童(生徒)の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見、解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かしつつ、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」と「情報モラル教育を身に付ける」ことが記されています。また、「学習指導要領 特別の教科(道徳)」において、「児童(生徒)の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実させること」と記されています。

情報モラル教育は、今後、よりよいコミュニケーションや人と人との関係づくりのために、今後も変化を続けていくであろう情報手段(コンピュータやネットワーク等)をいかに上手に賢く安全に使っていくか、そのための判断力や心構えを身に付けさせていく上で、ますます重要になっていくはずです。

本研究では、小中学校の担任が指導できるモデル指導案や SNS 提示ツールなどを提案し、児童生徒が体験したり話し合ったりしながら学ぶことができるようまとめました。研究成果が、学校や教育機関等教育関係者の皆様にとって、SNS のより良い活用にむけての指導に役立てば幸いです。

おわりに、本研究を進めるにあたり、懇切丁寧な御指導をいただきました筑波大学准教授・鈴木佳苗先生、ご協力いただいた研究協力校と研究協力員の方々に心より感謝申し上げます。

平成29年3月

千葉県総合教育センター所長 安藤 久彦

目 次

序	1
目次	2
1 主題設定の理由	3
2 研究内容	3
3 研究組織	3
4 平成 27 年度の研究経過	
(1) 研究協力員会議	3
(2) 「児童生徒のスマートフォンや携帯電話等の利用に関する調査」について	4
5 研究協力員会議	1 9
6 検証授業のまとめ	2 2
7 指導モデルプラン	
(1) 小学校高学年用	3 2
(2) 中学校用	4 5
終わりに	5 4

生活を豊かにするためのSNS利用に関する指導法の研究

千葉県総合教育センター
カリキュラム開発部メディア教育担当

1 主題設定の理由

近年、SNSが普及し、特にLINEの利用者は5,800万人、Twitterの利用者は3,500万人とも言われ、児童生徒の間でもコミュニケーションツールとして利用されている。LINEでは、テキスト、写真、動画、スタンプなどをやりとりできる便利な機能がある。その反面、誤解や、自分の気持ちを上手に伝えられないことによるトラブルの発生が多く報告されている。また、SNSでは安易な投稿による個人情報の流出の危険性もある。児童生徒の利用に対してマイナスのイメージでとらえる場面が非常に多いのが実情である。

しかし、SNSの利便性は非常に高く、これからの社会生活で切り離すことは難しい。SNSの特性を理解し体験することで、有効な活用法を身につけ、児童生徒の生活をより豊かなものにすることができる。

上記の理由から、本主題である「生活を豊かにするためのSNS利用に関する指導法の研究」を設定した。

2 研究内容

- (1) 児童生徒のSNS利用実態を調査する。(平成27年度実施)
- (2) 調査をもとに、必要な教材・指導案を検討する。
- (3) SNS提示ツールを開発し、指導モデルプラン案をもとに検証授業を実施する。
- (4) 検証授業を受けて指導モデルプラン(指導案、教材、ワークシート等)をまとめる。

3 研究組織

(1) 研究協力校及び協力員

勝浦市立勝浦小学校	教諭 高岡 顕慎	習志野市立袖ヶ浦東小学校	教諭 干村 尚穂
八千代市立萱田中学校	教諭 片桐 庸至	富里市立富里中学校	教諭 吉田 祐貴
県立袖ヶ浦高等学校	教諭 眞山 和姫	県立船橋啓明高等学校	教諭 大橋 真也

(2) 指導助言者

筑波大学情報学群 准教授 鈴木 佳苗

(3) 千葉県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

4 平成27年度の研究経過

(1) 研究協力員会議

研究主題を「SNS体験アプリケーションの開発」とし、アプリケーションの開発に向けてのアンケートの実施やアプリケーションを使った指導案の作成について検討した。年間で3回の研究協力員会議を実施し、「各校の児童生徒のSNS利用の実態」「児童生徒のSNSに関する実態・意識等を調査するアンケートの内容」「SNS体験アプリケーションの方向性」「SNS体験アプリケーションを利用した授業展開」について検討した。

【登録商標】「LINE」(LINE株式会社)
「Twitter」(Twitter, Inc.)

(2)「児童生徒のスマートフォンや携帯電話等の利用に関する調査」について

I 調査概要

- 1 調査目的 県内における児童生徒のスマートフォン等の使用に関する実態・意識等を把握する。
- 2 調査期間 平成 27 年 11 月～12 月
- 3 調査対象 県内小・中・高・特別支援学校児童生徒 13,552 名

【内訳】

小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
903 名	884 名	936 名	2,069 名	1,990 名	1,881 名	1,563 名	1,706 名	1,620 名

【調査協力校】(県内 34 校)

小学校 (13 校)

旭市立矢指小学校, 市原市立姉崎小学校, 市原市立水の江小学校, 大網白里市立大網東小学校, 香取市立小見川中央小学校, 佐倉市立佐倉小学校, 白井市立桜台小学校, 匝瑳市立平和小学校, 館山市立館山小学校, 流山市立南流山小学校, 成田市立橋賀台小学校, 野田市立七光台小学校, 茂原市立本納小学校

中学校 (14 校)

我孫子市立布佐中学校, 印西市立印旛中学校, 香取市立佐原中学校, 香取市立佐原第三中学校, 鴨川市立鴨川中学校, 木更津市立金田中学校, 袖ヶ浦市立根形中学校, 袖ヶ浦市立平川中学校, 館山市立第三中学校, 東庄町立東庄中学校, 成田市立中台中学校, 南房総市立千倉中学校, 茂原市立茂原中学校, 横芝光町立光中学校

高等学校 (6 校)

県立天羽高等学校, 県立安房拓心高等学校, 県立印旛明誠高等学校, 県立匝瑳高等学校, 県立茂原高等学校, 県立八街高等学校

特別支援学校 (1 校)

県立千葉聾学校

- 4 調査・集計方法 マークシート方式アンケート (A4・両面)

小学校用…【別紙 1】 中学校・高等学校用…【別紙 2】

アンケートは学年別に集計し, その回答数の割合を数値化

Ⅱ 調査結果

1 通信機器の所有状況について

(1) 【複数可】次の通信機器の中で、あなたは何を持っていますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
持っていない	6.6%	3.6%	3.4%	3.8%	4.9%	4.6%	0.7%	0.4%	0.9%
ゲーム機(DS, PSP など)	85.8%	88.9%	88.7%	82.7%	74.6%	69.5%	69.9%	64.5%	58.6%
スマートフォン	25.9%	32.0%	38.1%	60.6%	63.2%	68.3%	96.8%	96.4%	95.4%
ガラケー(携帯電話)	14.4%	13.8%	17.8%	13.0%	13.3%	10.8%	5.6%	5.7%	4.9%
子ども携帯(キッズケータイ)	37.7%	33.5%	27.2%	9.0%	4.9%	2.3%	0.6%	0.3%	0.4%
タブレット	22.1%	28.3%	30.7%	30.1%	29.6%	29.8%	22.3%	21.5%	19.6%
※スマートフォンまたは携帯電話	59.6%	63.5%	65.4%	72.1%	74.8%	76.3%	98.5%	98.6%	97.6%

※「スマートフォン」、「ガラケー」、「子ども携帯」という回答を、重複して持っている場合でも重複しないように集計。

- ・スマートフォンの所持率は、小学校で約 35%, 中学校で約 65%, 高校はほぼ 100%となっている。
- ・タブレットは中学生の所持率が最も高い。
- ・スマートフォンとケータイを合わせると、小学生でも約 8 割の子どもが持っている。

(2) 【一つだけ】自分のスマートフォンや携帯電話をいつから持ちましたか(自分専用のもの)。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
持っていない	44.1%	41.6%	38.6%	27.0%	22.4%	18.8%	1.0%	0.6%	1.2%
小 4 以前	53.6%	40.5%	25.9%	11.1%	8.3%	8.6%	10.6%	11.1%	11.4%
小 5 から		15.5%	22.3%	11.9%	8.7%	8.3%	6.1%	4.6%	5.4%
小 6 から			11.2%	21.4%	17.7%	14.8%	9.3%	8.9%	7.8%
中 1 から				27.5%	32.4%	28.9%	23.4%	22.6%	23.9%
中 2 から					8.4%	13.1%	14.1%	13.9%	11.1%
中 3 から						5.7%	14.9%	18.9%	16.4%
高 1 以降							20.3%	19.0%	21.7%

- ・現在の小 6 が小 4 だった頃に比べて、現在の小 4 は約 2 倍の児童が持っている。
- ・現在の中学生は、中 1～中 3 まで、約 7 割強の生徒が持っている。
- ・自分のスマートフォンや携帯電話を持つ年齢は年々下がってきている
- ・高校生は、約 100%の生徒が持っている。
- ・高校入学時にそれまで持っていない約 2 割の生徒が持ち始めて、ほぼ 100%の所有率になる。

(3) 【一つだけ】Wi-Fi(無線 LAN)を使っていますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
使っていない	16.7%	16.7%	13.6%	14.5%	14.2%	14.3%	12.1%	10.6%	11.3%
家の Wi-Fi を使う	28.7%	39.9%	44.3%	46.4%	50.3%	53.1%	61.5%	61.8%	64.1%
外の Wi-Fi を使う	2.9%	2.8%	3.5%	3.9%	2.6%	3.3%	3.7%	5.3%	4.7%
家と外の Wi-Fi を使う	12.1%	16.3%	19.6%	18.8%	20.5%	20.1%	16.6%	17.7%	15.2%
わからない	37.0%	22.7%	17.9%	15.3%	11.0%	7.7%	5.1%	3.2%	3.2%

- ・小学生では、スマートフォン・携帯電話の所持率以上に無線 LAN を使用している割合が高い。

2. 機器の利用状況について

(4) 【複数可】スマートフォンや携帯電話などを何に利用していますか。

(タブレットや家族のものを借りる場合も含む)

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
利用していない	12.8%	9.6%	11.2%	10.4%	9.9%	8.8%	0.9%	0.6%	0.9%
通話	45.4%	54.6%	54.6%	62.9%	63.5%	66.5%	80.9%	81.2%	77.0%
メール	33.7%	38.0%	41.1%	45.7%	48.1%	53.1%	55.2%	57.5%	55.2%
LINE	17.4%	27.5%	35.0%	64.3%	65.9%	73.4%	95.5%	94.7%	92.7%
Twitter	2.4%	2.8%	6.0%	16.1%	26.8%	43.4%	63.9%	70.8%	66.4%
ブログ	2.2%	3.4%	4.6%	3.8%	4.5%	5.5%	4.7%	5.5%	5.5%
ウェブを見る	16.5%	25.2%	36.6%	43.1%	48.7%	57.8%	71.8%	76.4%	77.0%
音楽を聞く	34.7%	41.4%	49.9%	62.7%	68.4%	72.9%	83.9%	83.8%	79.4%
写真や動画を見る・撮る	53.8%	61.7%	62.4%	70.8%	72.0%	73.3%	85.1%	87.0%	80.5%
ショッピング・オークション	3.2%	4.4%	8.1%	8.4%	11.4%	18.3%	24.1%	33.4%	36.4%
マンガを見る	10.6%	12.3%	18.1%	22.9%	24.4%	26.5%	32.8%	33.8%	26.7%
ゲームをする	65.0%	66.6%	68.3%	68.3%	66.0%	59.8%	76.7%	72.1%	64.3%
勉強	21.4%	28.1%	27.6%	29.6%	27.0%	33.0%	30.3%	36.0%	36.6%

- ・中学校から LINE の利用が通話を上回り、高校では 9 割以上の生徒が利用している。
- ・Twitter は、中 3 くらいから使う生徒が増えてくる。
- ・スマートフォンや携帯電話でのゲームの利用は小学生から 6 割を超え、その後横ばいとなっている。

(5) 【一つだけ】スマートフォンや携帯電話などを、1 日あたりどのくらい利用していますか。

平日の利用時間	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
ない	38.4%	28.2%	25.5%	19.1%	15.5%	14.1%	1.3%	1.3%	2.0%
30 分程度	36.0%	41.2%	33.8%	20.6%	17.2%	17.7%	3.7%	4.6%	8.5%
1 時間程度	14.5%	15.4%	19.3%	24.6%	23.6%	25.3%	19.6%	17.5%	20.6%
2 時間程度	3.5%	7.2%	9.0%	19.4%	20.4%	21.5%	30.9%	29.8%	27.0%
3 時間程度	2.4%	3.7%	6.3%	8.7%	12.2%	11.1%	23.3%	25.1%	17.1%
4 時間以上	1.8%	2.7%	4.5%	6.6%	9.2%	8.7%	20.7%	20.6%	23.4%

- ・年齢が上がるにつれ、利用時間は増加している。
- ・高校生の 4 割強は、3 時間以上利用している。

休日の利用時間	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
ない	27.6%	19.1%	21.0%	15.3%	13.6%	12.4%	1.7%	1.2%	1.8%
30 分程度	31.3%	32.5%	25.2%	12.4%	9.6%	9.8%	2.2%	2.7%	4.9%
1 時間程度	16.8%	19.6%	16.2%	15.6%	15.0%	13.8%	7.3%	7.6%	12.2%
2 時間程度	8.1%	12.1%	15.1%	17.4%	16.9%	18.3%	18.9%	18.6%	19.4%
3 時間程度	4.7%	5.3%	7.5%	16.2%	15.8%	18.8%	26.5%	26.0%	21.4%
4 時間以上	5.6%	9.2%	12.3%	20.4%	26.0%	24.0%	42.5%	41.6%	37.2%

- ・高校生の約 4 割が 4 時間以上利用しており、3 時間以上は 6～7 割にもなる。
- ・中学生以上は、休日になると、4 時間以上利用する生徒が一番多くなる。
- ・小学生でも、休日は、1 割～2 割の生徒が 3 時間以上利用している。

- (6) 【一つだけ】スマートフォンや携帯電話などの利用について、保護者との間で約束やルールなどを決めていますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
使っていない	19.5%	15.2%	19.2%	16.3%	15.7%	13.6%	1.3%	1.1%	2.5%
特に決めていない	25.8%	31.6%	32.8%	33.4%	42.3%	50.5%	67.7%	77.2%	80.4%
約束やルールを決めている	51.6%	51.4%	46.8%	49.2%	40.2%	34.3%	29.9%	20.5%	15.2%

- ・小学生では約 5 割の児童が約束やルールを決めている。
- ・中 2 くらいから約束やルールを決めている割合が下がり始め、高校では 2 割程度まで下がる。

- (7) 【複数可】スマートフォンや携帯電話、タブレットなどを利用する際に何を意識していますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
使っていない	19.5%	15.0%	18.8%	14.0%	12.6%	10.6%	1.3%	0.6%	1.2%
特に意識していない	11.7%	11.0%	9.2%	18.4%	21.8%	25.4%	29.2%	33.3%	38.5%
勉強に関係ないときは使わない	12.8%	10.0%	10.5%	12.0%	11.2%	15.5%	9.3%	8.8%	10.2%
使用する時間を決めている	32.9%	30.1%	27.5%	21.8%	15.8%	14.0%	6.8%	3.9%	4.5%
使用する場所を決めている	15.5%	14.7%	14.0%	10.3%	8.0%	6.5%	5.4%	4.5%	3.5%
有料サイトを無断で利用しない	48.5%	56.4%	57.8%	60.7%	57.5%	53.3%	62.7%	56.6%	49.1%
ネット上への書き込みや画像等の投稿をしない	38.4%	44.9%	41.1%	34.8%	25.5%	18.2%	17.5%	14.1%	11.7%
ブログなどを作らない	37.5%	41.9%	39.0%	34.4%	26.1%	20.1%	20.0%	17.9%	14.1%
名前や住所等の個人情報を書き込まない	45.6%	55.5%	53.7%	52.2%	45.1%	42.6%	48.3%	45.7%	40.7%
知らない人とやりとりしない	49.6%	53.1%	48.6%	46.5%	40.7%	34.6%	35.4%	30.1%	26.5%
知らない人に会わない	44.3%	47.5%	46.6%	48.1%	44.8%	38.5%	44.4%	38.2%	32.4%
メールやメッセージが来たらすぐに返事を出す	17.5%	18.9%	15.4%	13.4%	12.1%	9.3%	8.8%	5.9%	4.3%

- ・有料サイトの利用や個人情報保護についての意識は、年齢にかかわらず高い。
- ・使用する時間や時間に関する意識は、小学校が最も高く、年齢が上がるほど高い。
- ・見知らぬ人とのやり取りについては中学校・高校になるほど意識が低くなっている。

- (8) 【複数可】スマートフォンや携帯電話、タブレットなどを利用する際の危険性を学ぶ機会がありますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
ない	36.9%	25.0%	22.5%	13.0%	17.0%	14.9%	10.7%	11.9%	15.5%
家族から	48.9%	56.0%	50.1%	42.9%	37.0%	28.8%	24.8%	20.3%	15.7%
先生から(担任の先生など)	14.0%	19.0%	26.2%	27.9%	21.8%	23.0%	18.1%	16.2%	10.9%
学校の授業や行事から(ケータイ安全教室など)	11.3%	21.3%	37.2%	64.1%	54.6%	57.2%	67.2%	61.8%	56.4%
テレビやパンフレットなどから	15.4%	28.1%	27.8%	42.0%	36.8%	39.7%	40.8%	42.5%	39.0%
その他	6.5%	5.2%	3.8%	5.1%	5.0%	6.8%	5.6%	5.9%	7.5%

- ・小学生は、危険性を学ぶ機会がない児童が 3 割程度いる。
- ・家族から学ぶ機会は、小学生から中 1 くらいまでに多い。
- ・中学校・高校になると学校で学ぶ機会が多くなる。"

3 コミュニケーション・サービスの利用状況について

(9) 【複数可】どのようなサービスを利用していますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
使っていない	66.8%	58.9%	55.3%	27.7%	23.6%	17.7%	2.4%	2.4%	2.7%
LINE	19.2%	29.0%	35.9%	64.9%	66.2%	74.5%	96.0%	96.1%	94.5%
Twitter	3.0%	3.5%	7.1%	17.4%	28.2%	45.0%	66.0%	73.0%	68.5%
mixi				3.0%	1.9%	2.5%	3.1%	2.1%	2.0%
Facebook				6.0%	7.8%	11.1%	8.9%	11.8%	12.0%
GREE	1.6%	2.9%	2.5%	1.9%	2.2%	2.9%	2.5%	4.4%	2.5%
Mobage	3.3%	4.8%	4.3%	1.8%	1.5%	3.1%	2.9%	4.8%	3.8%
Ameba	0.6%	2.1%	3.6%	2.8%	4.4%	5.4%	5.2%	8.1%	6.4%
カカオトーク	0.2%	0.5%	1.4%	6.6%	9.4%	13.1%	16.4%	16.1%	11.7%
Google+				30.3%	30.9%	31.8%	32.2%	29.2%	25.1%
Instagram				4.3%	6.5%	12.5%	19.1%	27.1%	29.1%
その他	12.2%	12.8%	11.5%	10.8%	10.4%	9.3%	6.5%	5.7%	7.0%

※mixi, Facebook, Google+, Instagram は、小学校では質問の選択肢から除外しているため結果がない。また、Google+の割合が高いが、回答者がGoogleの検索サービスと勘違いしている可能性が高い。

- ・LINE は、学校段階が上がるごとに利用率が高くなっている。
- ・LINE は、高校ではほぼ 10 割、中学校では約 7 割、小学校でも約 3 割の児童生徒が利用している。
- ・LINE 以外では、Twitter の利用率が高く、中 3 くらいから高くなりはじめている。

(10) 【複数可】通信機器を使ってコミュニケーションをとる相手はどのような人ですか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
使っていない	38.4%	34.2%	30.8%	19.5%	17.2%	13.2%	1.4%	1.3%	2.5%
学級・部活動の友達	5.3%	12.3%	20.7%	64.5%	68.7%	69.5%	85.2%	83.4%	73.3%
同学年の友達	17.5%	30.9%	42.2%	68.3%	70.2%	76.3%	86.1%	86.2%	83.7%
他学年の先輩・後輩	3.7%	6.7%	13.9%	48.1%	51.7%	52.4%	58.2%	51.3%	42.3%
異性の友達	1.7%	3.8%	11.2%	37.8%	40.3%	43.2%	50.2%	43.7%	38.8%
学校外の友達	8.4%	11.3%	21.8%	42.3%	47.0%	47.3%	75.5%	70.6%	63.8%
家族・親戚	55.7%	59.3%	60.5%	67.2%	65.5%	67.6%	82.5%	80.7%	74.3%
ネットで知り合った人	2.2%	1.7%	4.4%	11.1%	14.2%	16.9%	19.1%	20.9%	20.0%

- ・中学校から、クラスや部活動の友人とコミュニケーションをとる割合が高くなる。
- ・異性とのコミュニケーションの割合は、中 1 から高くなり、高 1 がピークとなっている。
- ・コミュニケーションをとる対象は、家族の割合が最も高く、高校生では約 8 割となっている。
- ・ネットで知り合った人とのコミュニケーションの割合は、高校生では約 2 割に達している。

- (11) 【一つだけ】メール、LINE、Twitterなどのコミュニケーション・サービスを利用する際、同一のサービス内で複数のIDを使い分けていますか。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
使っていない	78.2%	68.0%	57.3%	38.6%	32.9%	23.9%	7.1%	7.3%	6.9%
1つのIDだけ使っている	14.6%	23.4%	30.1%	43.9%	44.4%	46.6%	52.1%	46.5%	47.2%
2つ以上のIDを使い分けている	3.8%	5.0%	10.3%	14.5%	19.3%	26.7%	39.2%	44.6%	43.1%

・2つ以上のIDを使い分けている児童生徒の割合は、年齢が上がるにつれ高くなっている。

- (12) 【一つだけ】メール、LINE、Twitterなどのコミュニケーション・サービスを通じて知り合った人と、直接会ったことがありますか。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
ない	94.0%	95.5%	95.3%	89.5%	88.2%	87.6%	88.1%	84.9%	81.7%
ある	2.8%	2.4%	3.3%	8.8%	9.1%	9.7%	10.9%	14.3%	15.6%

・ネットで知り合った人と直接会ったことのある児童生徒の割合は、年齢が上がるにつれ高くなっている。

- (13) 【自由記述】前問で「ある」と答えた人は、これまで会った人数と知り合ったきっかけを具体的に記入してください。

※略

- (14) 【一つだけ】いつ頃からLINEなどのコミュニケーション・サービスを使い初めましたか。

※LINEは2011年6月23日サービス開始。太線の境界はLINEのサービス開始前後を示している。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
使っていない	75.6%	70.1%	59.5%	28.7%	25.4%	18.3%	2.7%	2.2%	2.7%
小4以前	21.6%	17.0%	7.8%	3.8%	1.8%	1.4%	0.5%	1.1%	0.6%
小5から		12.2%	16.8%	9.0%	4.7%	2.6%	1.5%	1.3%	0.4%
小6から			14.7%	26.0%	18.1%	12.6%	2.9%	1.6%	1.4%
中1から				31.2%	37.4%	37.4%	27.8%	14.6%	9.0%
中2から					10.8%	18.1%	23.6%	23.3%	11.2%
中3から						7.7%	19.6%	28.6%	29.1%
高1以降							20.4%	26.5%	43.6%

・現在の高1以下の学年では中1からLINEを利用し始める生徒の割合が高い。

・小学校でも約2割の児童がLINEを利用している。

- (15) 【一つだけ】LINEなどのグループにいくつ入っていますか。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
使っていない	83.9%	75.6%	65.2%	36.0%	32.3%	24.6%	3.6%	3.4%	4.2%
1～3	8.0%	15.4%	17.3%	12.7%	11.6%	13.2%	8.4%	6.9%	8.6%
4～10	3.7%	5.2%	11.1%	27.2%	29.5%	34.0%	42.2%	40.0%	43.6%
11～20	1.0%	1.2%	2.7%	15.6%	18.1%	19.4%	32.5%	32.4%	28.8%
21以上	0.6%	0.8%	1.8%	7.1%	5.9%	6.3%	11.6%	16.1%	12.4%

・中学校・高校になると4つ以上のグループに所属する生徒の割合が高くなっている。

(16) 【一つだけ】LINEなどのコミュニケーションツールを使う中で、経験したトラブルは何回くらいありますか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
ない	94.5%	95.8%	90.1%	77.7%	80.6%	75.1%	73.6%	76.8%	76.9%
1～3 回くらい	1.9%	2.4%	5.0%	17.0%	14.7%	18.1%	20.2%	17.6%	17.3%
4～10 回くらい	0.9%	0.3%	1.9%	3.2%	2.2%	3.1%	3.8%	3.5%	2.8%
11～20 回くらい	0.0%	0.0%	0.2%	0.4%	0.4%	0.5%	0.6%	0.3%	0.5%
21 回以上	0.1%	0.0%	0.4%	0.3%	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%

・中 1 からトラブルが増えはじめ、高 1 がピークとなっている。

(17) 【複数可】前問で「ない」以外を回答した人に質問です。トラブルの主な相手は誰ですか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
学級・部活動の友達	0.4%	0.2%	2.0%	7.1%	5.6%	6.8%	7.4%	5.0%	4.3%
同学年の友達	0.6%	1.0%	4.9%	13.6%	9.5%	10.4%	12.4%	7.8%	8.6%
他学年の先輩後輩	0.3%	0.3%	0.5%	1.7%	2.4%	3.0%	2.9%	1.6%	1.2%
異性の友達	0.0%	0.2%	1.1%	2.0%	1.2%	2.0%	2.6%	2.4%	1.7%
学校外の友達	0.4%	0.9%	0.7%	1.7%	1.3%	1.8%	3.8%	3.7%	2.0%
家族・親戚	1.7%	0.8%	1.3%	0.8%	0.9%	1.2%	0.9%	0.6%	0.8%
ネットの知り合い	0.9%	0.5%	0.9%	2.0%	1.7%	3.6%	2.9%	3.2%	3.2%
その他	1.8%	0.9%	1.8%	2.9%	2.0%	2.8%	2.7%	3.6%	3.0%

・中 1 から高 1 にかけて同学年同士のトラブルが多い。

・ネットで知り合った人とのトラブルもわずかではあるがある。

(18) 【複数可】前々問で「ない」以外を回答した人に質問です。どのようなトラブルにあいましたか。

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
悪口	1.2%	0.2%	1.8%	8.5%	8.2%	9.3%	10.0%	7.2%	5.8%
画像等の要求	0.0%	0.2%	0.7%	2.1%	1.7%	2.2%	2.2%	1.6%	1.1%
画像等の拡散	0.0%	0.2%	1.2%	2.8%	2.3%	2.0%	2.9%	1.9%	1.9%
グループから外される	0.2%	0.2%	1.2%	4.5%	2.3%	3.2%	2.8%	2.3%	2.2%
知らない人からの連絡	0.7%	0.5%	1.5%	3.4%	3.1%	4.3%	3.4%	4.9%	3.9%
その他	2.9%	2.4%	5.0%	8.4%	5.3%	6.9%	9.3%	8.0%	8.0%

・悪口を書かれたトラブルが最も多く、中 1 から増えはじめ、高 1 でピークとなっている。

・知らない人から連絡がくるトラブルもわずかではあるが、中学校から増えている。

(19) 【自由記述】LINE を使って特に困ったことがあったら記入してください。

※略

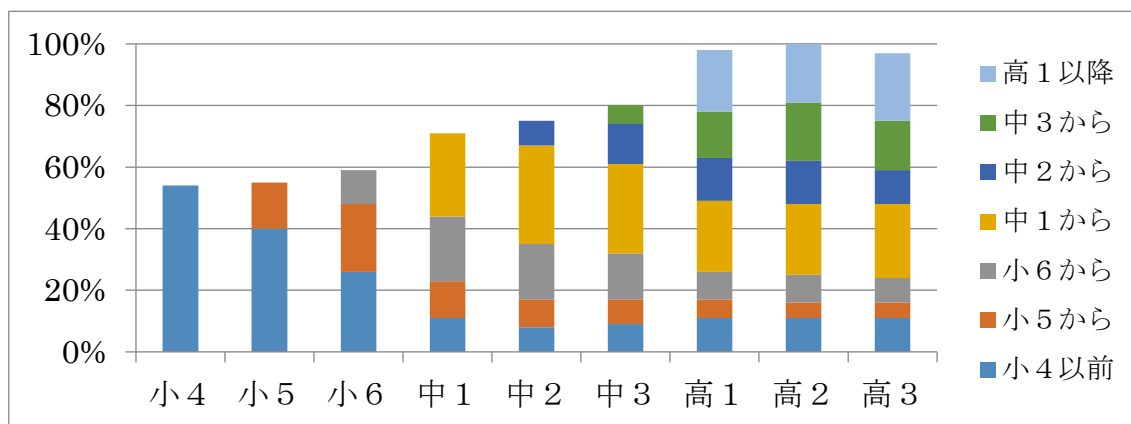
(20) 【自由記述】LINE を使って良かったことがあったら記入してください。

※略

Ⅲ 考察

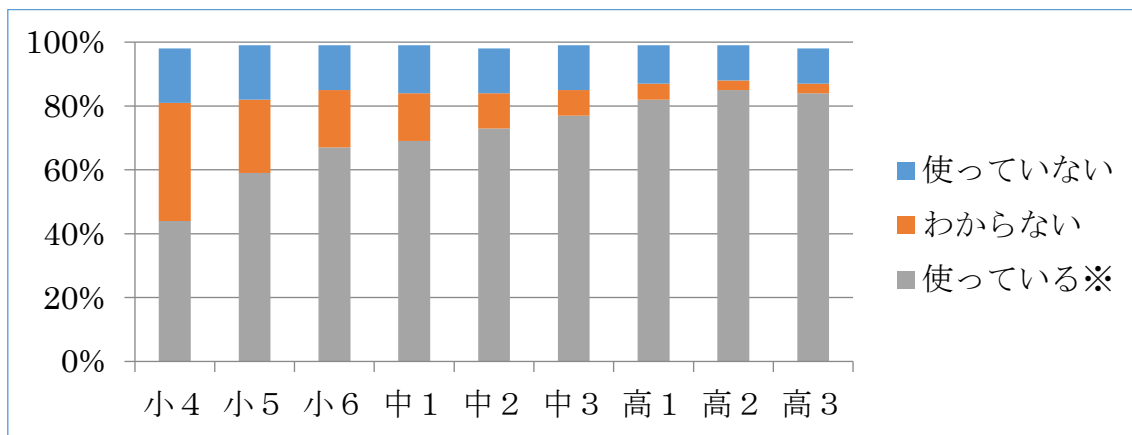
1 **スマホ等の利用の低年齢化**

自分のスマートフォンや携帯電話をいつから持ちましたか。(自分専用のもの)



スマートフォンや携帯電話を持ち始める時期は、小4以前からと回答する割合が、現在の小6と小4を比較すると約2倍になっており、スマートフォン等の所有の低年齢化が進んでいる。

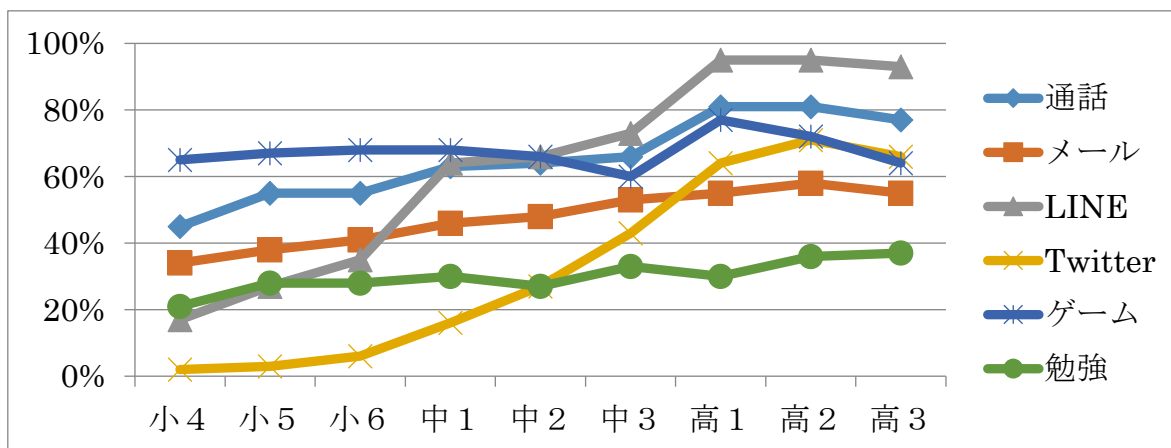
Wi-Fi（無線 LAN）を使っていますか。



ゲーム機の所有率は、学年が進むにつれて低くはなっているが、高等学校でも6割以上ある。Wi-Fiの使用率とあわせると、ゲーム機等をWi-Fiに接続してインターネットを利用する児童生徒も多いと推測される。

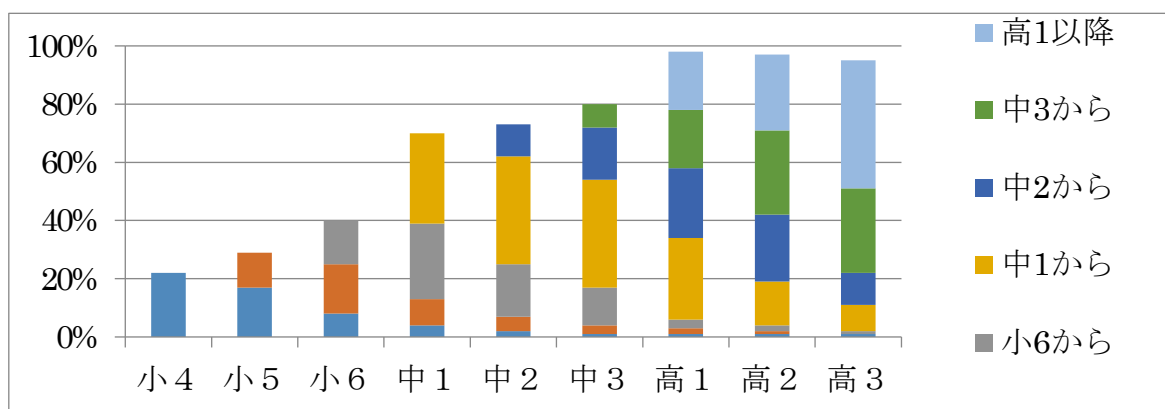
2 **SNS利用の低年齢化（利用の中心はLINEとTwitter）**

スマートフォンや携帯電話などを何に使用していますか（複数回答可）



児童生徒が利用している SNS 等のサービスは、LINE と Twitter がほとんどである。SNS の利用に関する指導では、特に LINE や Twitter の利用を考慮していく必要がある。

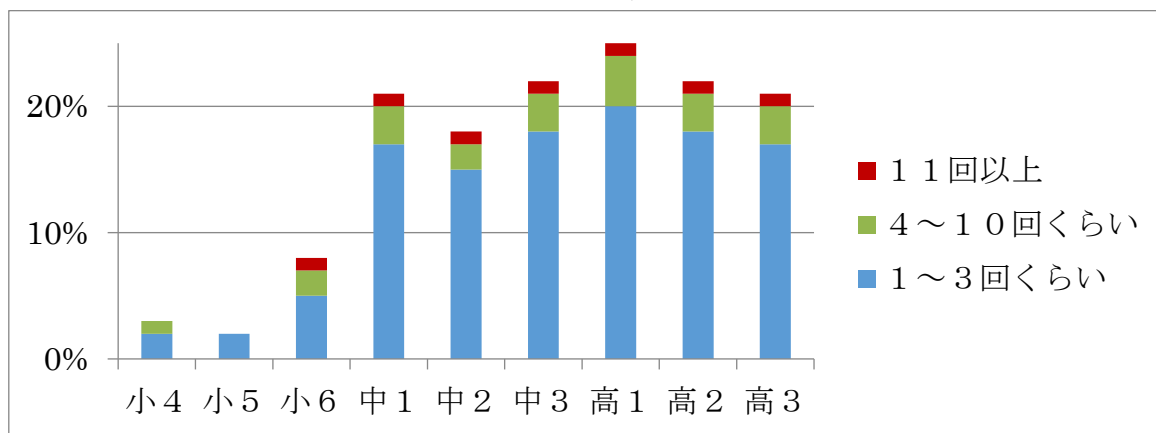
いつ頃から LINE などのコミュニケーション・サービスを使い始めましたか



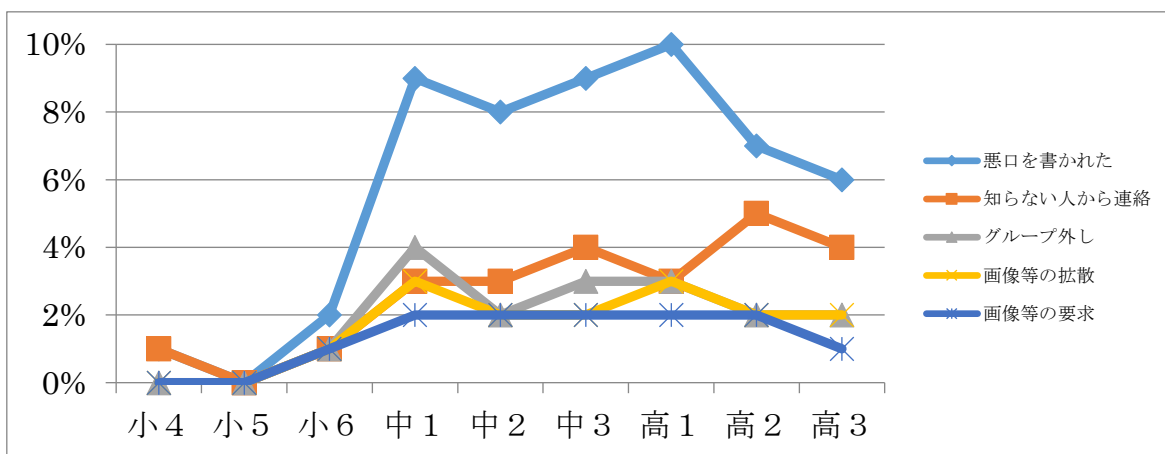
LINE については、中学校で6割以上が利用しており、高等学校ではほとんど全員が利用している。高1以下では、中1から LINE 等のコミュニケーション・サービスを利用し始めた生徒が多いが、年々低年齢化が進んでおり、小4でも約2割の児童が LINE 等を使っており、この割合は、今後ますます高くなると考えられる。

3 SNS 上のトラブルは使い始めである中学校から急増

LINE などのコミュニケーションツールを使う中で、経験したトラブルは何回くらいありますか。



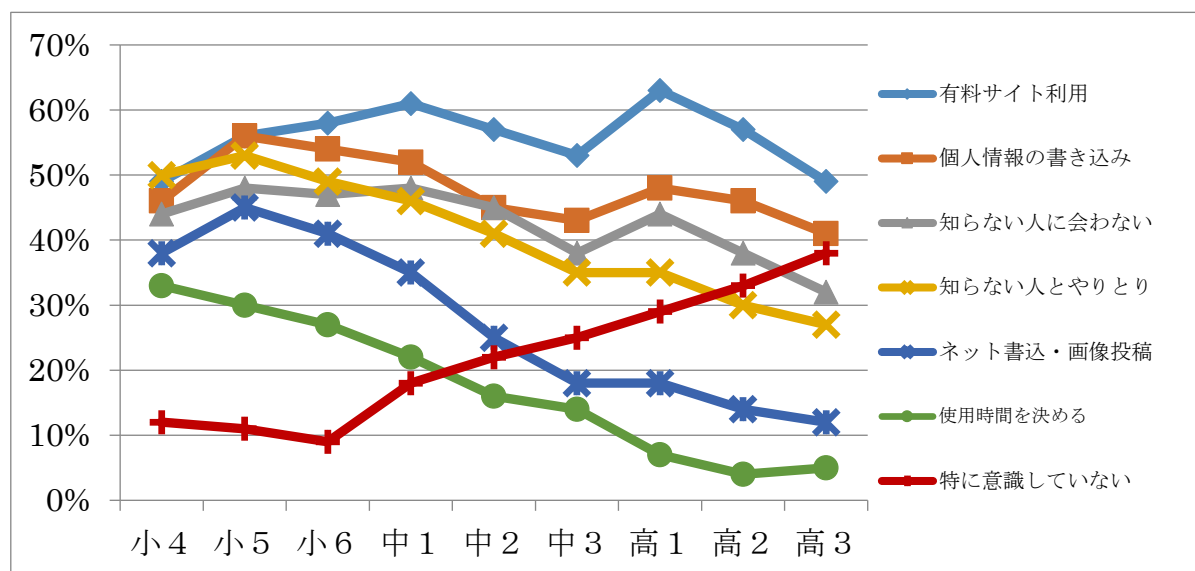
どのようなトラブルにありましたか。(複数回答可)



ネット上のトラブルは、中学校から増える傾向にあり、利用者の約2割が何らかのトラブルの経験があることがわかる。一番多いトラブルは悪口に関することであるが、画像の要求や画像の拡散についての回答もある。

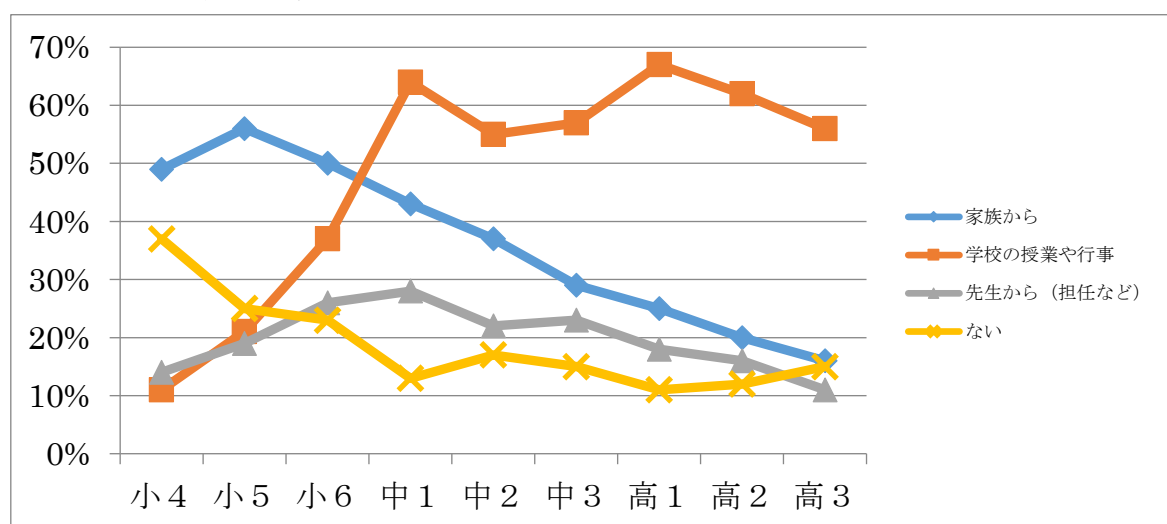
4 SNSに対する危険意識と危険性を学ぶ機会の低下

スマートフォンや携帯電話、タブレットなどを利用する際に、何を意識していますか。(複数回答可)



利用する際に意識していることとして、有料サイトの利用や個人情報の書き込みについては年齢に関係なく半数程度の児童生徒が気をつけている。知らない人とやりとりしない・会わないについては、有料サイトや個人情報と異なり、年齢があがるとともに意識が低下している。

スマートフォンや携帯電話、タブレットなどを利用する際の危険性を学ぶ機会がありますか。(複数回答可)



危険性を学ぶ機会については、小学校では2割～4割程度学ぶ機会がない児童がおり、家庭の指導に依存している割合が高い。中学校・高等学校では、教員や学校の授業・行事などから学ぶ割合が高くなっているが、6割程度にとどまっている。また、担任から危険性を学ぶ機会がある割合は、校種を問わず低くなっている。

小学校（小４～小６）						
校名	児童数	スマホ所持	家庭ルールあり	担任授業あり	安全教室等あり	トラブルあり
A小	201	30.2%	45.5%	19.7%	60.7%	5.1%
B小	117	18.2%	40.3%	6.7%	3.4%	1.7%
C小	228	32.5%	53.9%	29.2%	32.4%	6.0%
D小	143	26.3%	47.0%	17.6%	7.5%	10.8%
E小	239	35.5%	44.7%	13.8%	30.8%	7.8%
F小	273	23.3%	50.9%	12.3%	2.6%	8.1%
G小	162	28.3%	53.3%	14.7%	10.9%	7.5%
H小	138	42.3%	51.8%	9.7%	3.8%	13.6%
I小	360	38.7%	47.3%	28.2%	27.3%	4.3%
J小	94	39.1%	40.9%	38.9%	9.2%	7.8%
K小	93	45.4%	45.1%	15.8%	50.1%	9.1%
L小	75	43.0%	56.9%	27.8%	27.9%	4.2%
M小	295	33.9%	54.7%	24.9%	46.2%	5.0%
N小	123	15.0%	56.2%	16.0%	2.4%	7.1%
O小	176	25.4%	58.1%	20.5%	4.7%	2.3%
P小	6	16.7%	36.9%	15.8%	27.9%	15.0%
中学校						
校名	児童数	スマホ所持	家庭ルールあり	担任授業あり	安全教室等あり	トラブルあり
A中	425	55.0%	37.9%	8.9%	60.4%	22.4%
B中	574	67.8%	47.7%	28.1%	74.7%	20.9%
C中	492	69.2%	41.7%	16.1%	55.6%	34.5%
D中	62	80.7%	36.6%	47.8%	72.6%	30.7%
E中	312	69.3%	36.7%	51.1%	48.3%	23.8%
F中	138	51.7%	34.3%	9.7%	62.3%	23.9%
G中	77	65.1%	53.2%	40.5%	55.1%	33.9%
H中	527	65.2%	41.1%	27.3%	45.5%	25.6%
I中	209	74.4%	40.9%	24.8%	82.9%	26.1%
J中	277	36.9%	39.5%	30.0%	76.2%	15.0%
K中	363	49.2%	27.6%	16.8%	32.9%	11.2%
L中	251	59.5%	39.5%	29.4%	30.6%	14.1%
M中	276	83.7%	40.6%	10.6%	82.5%	24.3%
N中	393	63.8%	43.7%	27.6%	72.3%	16.0%
O中	658	76.8%	44.9%	36.1%	83.1%	22.4%
P中	876	58.8%	42.4%	13.9%	33.9%	20.3%
Q中	30	60.7%	66.7%	46.3%	49.4%	44.0%
高等学校						
校名	児童数	スマホ所持	家庭ルールあり	担任授業あり	安全教室等あり	トラブルあり
A高	459	95.0%	22.3%	17.1%	71.9%	24.4%
B高	446	95.8%	30.1%	12.0%	76.8%	24.8%
C高	934	97.1%	19.6%	11.3%	53.1%	19.8%
D高	270	96.9%	19.7%	14.2%	43.3%	31.3%
E高	553	95.5%	21.8%	15.8%	70.2%	35.9%
F高	551	96.9%	19.0%	16.9%	73.2%	19.5%
G高	32	93.6%	32.3%	53.7%	64.8%	42.7%
H高	971	95.0%	22.9%	14.1%	61.8%	23.9%
I高	673	97.9%	20.6%	18.4%	51.0%	21.0%

- 1 スマホ等の利用の低年齢化 ※利用率は小中学校で差が大きい。
- 2 SNS利用の低年齢化（利用の中心はLINEとTwitter）
 ➡小学校段階からの指導が必要であるとともに、SNSの特性と利用について、発達段階や利用実態に応じて体系的に学ぶ機会が必要である。
- 3 SNS上のトラブルは使い始めである中学校から急増
 ➡進学を機会にトラブルが増加する傾向から小6から中1、中3から高1における指導の充実と学校種間や家庭との連携した取り組みが必要である。
- 4 SNSに対する危険意識と危険性を学ぶ機会の低下
 ➡特に、担任等から危険性を学ぶ機会がある割合は、校種を問わず低くなっていることから、指導案、指導資料、教材（コンテンツ）の開発が必要である。

★マークのしかた



スマートフォンやケータイ等の利用に関する調査（小学校用）

（ 年 組）

スマートフォン・ケータイやLINE（ライン），Twitter（ツイッター）などについて，質問に答えてください。

該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。自由記述は，欄からはみ出さないようにしてください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

1. 通信機器の所有状況について

(1) 【いくつでも】次の中で，あなたは何を持っていますか（家族のものでも自分専用に使えものは含む）。

- ☐ 持っていない ☐ ゲーム機（DS，PSPなど） ☐ スマートフォン
☐ ガラケー（ケータイ） ☐ 子どもケータイ（キッズケータイ） ☐ タブレット

(2) 【一つだけ】自分のスマートフォンやケータイをいつから持ちましたか（自分専用のもの）。

- ☐ 持っていない ☐ 小4以前から ☐ 小5から ☐ 小6から

(3) 【一つだけ】Wi-Fi（無線LAN）を使っていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 家で使っている ☐ 外で使っている ☐ 家と外で使っている ☐ わからない

2. 機器の利用状況について

(4) 【いくつでも】スマートフォンやケータイなどで何をしていますか（タブレットや家族のものを借りる場合も含む）。

- ☐ 利用していない ☐ 通話 ☐ メール ☐ LINE ☐ Twitter
☐ ブログ ☐ ウェブを見る ☐ 音楽を聞く ☐ 写真や動画を見る・撮る ☐ ショッピング・オークション
☐ マンガを見る ☐ ゲームをする ☐ 勉強

(5) 【一つだけ】スマートフォンやケータイなどを，1日あたりどのくらい利用していますか。

		ない	30分程度	1時間程度	2時間程度	3時間程度	4時間以上
1	平日の利用時間	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	休日の利用時間	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(6) 【一つだけ】スマートフォンやケータイなどの使い方について，家の人との間で約束やルールなどを決めていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 特に決めていない ☐ 約束やルールを決めている

(7) 【いくつでも】スマートフォンやケータイ，タブレットなどを使う時に，どのようなことに気をつけていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 特に気をつけていない ☐ 勉強に関係のないときは使わない ☐ 使う時間を決めている
☐ 使う場所を決めている ☐ 有料サイトを無断で利用しない ☐ ネット上への文字や画像の書き込みをしない ☐ ブログなどを作らない
☐ 名前や住所等の個人情報を書き込まない ☐ 知らない人とやりとりしない ☐ 知らない人に会わない ☐ メールやメッセージがきたらすぐに返事をする

(8) 【いくつでも】スマートフォンやケータイ，タブレットなどを使う時に気をつけることを学ぶ機会がありますか。

- ☐ ない ☐ 家族から ☐ 先生から（担任の先生など）
☐ 学校の授業や行事から（ケータイ安全教室など） ☐ テレビやパンフレットなどから ☐ その他

★マークのしかた



3. コミュニケーション・サービスの利用状況について

(9) 【いくつでも】この中で使っているものはどれですか。

- ☐ 使っていない ☐ LINE (ライン) ☐ Twitter (ツイッター) ☐ GREE (グリー)
☐ Mobage (モバゲー) ☐ Ameba (アメーバ) ☐ カカオトーク ☐ その他

(10) 【いくつでも】スマートフォンやケータイなどを使って連絡をとりあったりする相手はどのような人ですか。

- ☐ 使っていない ☐ 学級・部活の友達 ☐ 同学年の友達 ☐ 他学年の先輩・後輩
☐ 異性の友達 ☐ 学校外の友達 ☐ 家族・親戚 ☐ ネットで知り合った人

(11) 【一つだけ】メール, LINE(ライン), Twitter(ツイッター)などを使う時, 複数のID (名前) を使い分けていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 1つのID(名前)で使っている ☐ 2つ以上のID(名前)を使っている

(12) 【一つだけ】メール, LINE(ライン), Twitter(ツイッター)などを通じて知り合った人と, 直接会ったことがありますか。

- ☐ ない ☐ ある

(13) 【自由記述】前問で「ある」と答えた人は, これまで会った人数と知り合ったきっかけを具体的に記入してください。

(14) 【一つだけ】いつ頃からLINE (ライン) などを使い初めましたか。

- ☐ 使ってない ☐ 小4以前から ☐ 小4から ☐ 小5から ☐ 小6から

(15) 【一つだけ】LINE (ライン) などグループにいくつ入っていますか。

- ☐ 使ってない ☐ 1~3 ☐ 4~10 ☐ 11~20 ☐ 21以上

(16) 【一つだけ】LINE (ライン) などを使う中で, 経験したトラブルは何回くらいありますか。

- ☐ ない ☐ 1~3回くらい ☐ 4~10回くらい ☐ 11~20回くらい ☐ 21回以上

(17) 【いくつでも】(16)で「ない」以外を回答した人に質問です。トラブルの主な相手は誰ですか。

- ☐ 学級・部活の友達 ☐ 同学年の友達 ☐ 他学年の先輩・後輩 ☐ 異性の友達
☐ 学校外の友達 ☐ 家族・親戚 ☐ ネットで知り合った人 ☐ その他

(18) 【いくつでも】(16)で「ない」以外を回答した人に質問です。どのようなトラブルにありましたか。

- ☐ 悪口を書かれた ☐ 画像等を送れといわれた ☐ 画像等を広められた
☐ グループから外された ☐ 知らない人から連絡があった ☐ その他

(19) 【自由記述】LINE (ライン) を使って特に困ったことがあったら記入してください。

(20) 【自由記述】LINE (ライン) を使って良かったことがあったら記入してください。

★マークのしかた



スマートフォンや携帯電話等の利用に関する調査（中学校・高等学校用）

（ 年 組）

スマートフォン・携帯電話やLINE・Twitterなどに関する以下の項目について答えてください。

該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。自由記述は、欄からはみ出さないようにしてください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし ◐: 不十分なぬりつぶし

1. 通信機器の所有状況について

(1) 【複数可】次の通信機器の中で、あなたは何を持っていますか（家族のものでも自分専用に使えものは含む）。

- ☐ 持っていない ☐ ゲーム機（DS、PSPなど） ☐ スマートフォン
☐ ガラケー（携帯電話） ☐ 子ども携帯（キッズケータイ） ☐ タブレット

(2) 【一つだけ】自分のスマートフォンや携帯電話をいつから持ちましたか（自分専用のもの）。

- ☐ 持っていない ☐ 小4以前 ☐ 小5から ☐ 小6から ☐ 中1から ☐ 中2から ☐ 中3から ☐ 高1以降

(3) 【一つだけ】Wi-Fi（無線LAN）を使っていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 家のWi-Fiを使う ☐ 外のWi-Fiを使う ☐ 家と外のWi-Fiを使う ☐ わからない

2. 機器の利用状況について

(4) 【複数可】スマートフォンや携帯電話などを何に利用していますか（タブレットや家族のものを借りる場合も含む）。

- ☐ 利用していない ☐ 通話 ☐ メール ☐ LINE ☐ Twitter
☐ ブログ ☐ ウェブを見る ☐ 音楽を聞く ☐ 写真や動画を見る・撮る ☐ ショッピング・オークション
☐ マンガを見る ☐ ゲームをする ☐ 勉強

(5) 【一つだけ】スマートフォンや携帯電話などを、1日あたりどのくらい利用していますか。

		ない	30分程度	1時間程度	2時間程度	3時間程度	4時間以上
1	平日の利用時間	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	休日の利用時間	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(6) 【一つだけ】スマートフォンや携帯電話などの利用について、保護者との間で約束やルールなどを決めていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 特に決めていない ☐ 約束やルールを決めている

(7) 【複数可】スマートフォンや携帯電話、タブレットなどを利用する際に、何を意識していますか。

- ☐ 使っていない ☐ 特に意識していない ☐ 勉強に関係のないときは使わない ☐ 使用する時間を決めている
☐ 使用する場所を決めている ☐ 有料サイトを無断で利用しない ☐ ネット上への書き込みや画像等の投稿をしない ☐ ブログなどを作らない
☐ 名前や住所等の個人情報を書き込まない ☐ 知らない人とやりとりしない ☐ 知らない人に会わない ☐ メールやメッセージがきたらすぐに返事を出す

(8) 【複数可】スマートフォンや携帯電話、タブレットなどを利用する際の危険性を学ぶ機会がありますか。

- ☐ ない ☐ 家族から ☐ 先生から（担任の先生など）
☐ 学校の授業や行事から（ケータイ安全教室など） ☐ テレビやパンフレットなどから ☐ その他

★マークのしかた



3. コミュニケーション・サービスの利用状況について

(9) 【複数可】どのようなサービスを利用していますか。

- ☐ 利用していない ☐ LINE ☐ Twitter ☐ mixi ☐ Facebook ☐ GREE
☐ Mobage ☐ Ameba ☐ カカオトーク ☐ Google+ ☐ Instagram ☐ その他

(10) 【複数可】通信機器を使ってコミュニケーションをとる相手はどのような人ですか。

- ☐ 使っていない ☐ 学級・部活の友達 ☐ 同学年の友達 ☐ 他学年の先輩・後輩
☐ 異性の友達 ☐ 学校外の友達 ☐ 家族・親戚 ☐ ネットで知り合った人

(11) 【一つだけ】メール、LINE、Twitterなどのコミュニケーション・サービスを利用する際、同一のサービス内で複数のIDを使い分けていますか。

- ☐ 使っていない ☐ 1つのIDだけ使っている ☐ 2つ以上のIDを使い分けている。

(12) 【一つだけ】メール、LINE、Twitterなどのコミュニケーション・サービスを通じて知り合った人と、直接会ったことがありますか。

- ☐ ない ☐ ある

(13) 【自由記述】前問で「ある」と答えた人は、これまで会った人数と知り合ったきっかけを具体的に記入してください。

(14) 【一つだけ】いつ頃からLINEなどのコミュニケーション・サービスを使い初めましたか。

- ☐ 使ってない ☐ 小4以前 ☐ 小5から ☐ 小6から ☐ 中1から ☐ 中2から ☐ 中3から ☐ 高1以降

(15) 【一つだけ】LINEなどのグループにいくつ入っていますか。

- ☐ 使ってない ☐ 1～3 ☐ 4～10 ☐ 11～20 ☐ 21以上

(16) 【一つだけ】LINEなどのコミュニケーションツールを使う中で、経験したトラブルは何回くらいありますか。

- ☐ ない ☐ 1～3回くらい ☐ 4～10回くらい ☐ 11～20回くらい ☐ 21回以上

(17) 【複数可】前問で「ない」以外を回答した人に質問です。トラブルの主な相手は誰ですか。

- ☐ 学級・部活の友達 ☐ 同学年の友達 ☐ 他学年の先輩・後輩 ☐ 異性の友達
☐ 学校外の友達 ☐ 家族・親戚 ☐ ネットで知り合った人 ☐ その他

(18) 【複数可】前々問で「ない」以外を回答した人に質問です。どのようなトラブルにありましたか。

- ☐ 悪口 ☐ 画像等の要求 ☐ 画像等の拡散 ☐ グループから外される
☐ 知らない人からの連絡 ☐ その他

(19) 【自由記述】LINEを使って特に困ったことがあったら記入してください。

(20) 【自由記述】LINEを使って良かったことがあったら記入してください。

5 研究協力員会議

(1) 第1回研究協力員会議

講義「情報モラル・ネットいじめの研究の成果と課題について」

講師 筑波大学情報学群 准教授 鈴木 佳苗

協議「授業の組み立て、アイディア、SNS提示ツールの開発について」

- ・知識として適切な使い方を教えるのではなく、具体的な課題場面を設定し、グループで話し合うなど、考えを深める学習活動を重視する。
- ・小中学校の担任が指導できる教材・資料の開発を行う。

(2) 第2回研究協力員会議

- ・学校種ごとに授業展開や指導方法、授業に必要な教材の検討を行う。

(3) 第3回研究協力員会議（研究協力校における授業実践）

①勝浦市立勝浦小学校 第6学年 授業者 高岡 顕慎

「SNSでの上手な伝え合い方を考えよう」（道徳）

本時の目標「SNS上のコミュニケーションにおける『伝わりづらさ』とトラブルへの対処を知る」

- ・SNS提示ツールを使い、簡単な仕組みと利便性について理解し、話し合う。
- ・具体的な会話例を示し、その後、学校で起こりうるトラブルについて考える。
- ・それぞれの立場でどうすればよかったか話し合う。
- ・SNSでの上手な伝え合い方についてまとめ、これからの利用に生かす。



②習志野市立袖ヶ浦東小学校 第5学年 授業者 干村 尚穂

「SNSへの写真の載せ方について考えよう」（特別活動）

本時の目標「SNS上に写真を投稿する際に気を付けることを知る」

- ・SNSのトーク画面を提示し、その特性を知らせ、児童の利用状況を確認する。
- ・模擬画面に載ったクラスの集合写真を見せ、どう感じるか、全体で話し合う。
- ・例示した写真の投稿について感じたことを書き、グループで話し合う。
- ・SNSに写真を投稿する際にどのような点に気を付けるか発表する。



③八千代市立萱田中学校 第3学年 授業者 片桐 庸至

「SNSコミュニケーションのより良い利用方法について考えよう」(特別活動)

本時の目標「SNS疑似体験し、より良いコミュニケーションの方法を身につける」

- ・今までに経験したトラブルの事例を紹介する。
- ・SNSの画面を想定したシート上に、テーマを設定して付箋紙に書いたメッセージを貼っていく。事前に役割を設定し、ロールプレイングを行う。
- ・各グループのコミュニケーションカードからいくつかを提示し、会話についての感想を話し合う。会話の流れを変えた言葉を焦点化する。
- ・どんな場面でトラブルが発生しやすくなるのか話し合う。
- ・SNSの前向きな使用方法について自分の考えをまとめ発表する。

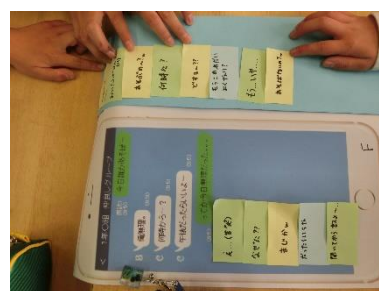


④富里市立富里中学校 第1学年 授業者 吉田 祐貴

「SNSの利点と欠点を理解しよう」(特別活動)

本時の目標「SNS提示ツールを使った疑似体験を通して、どのような会話が、トラブルを生むのか考える」

- ・SNS提示ツールを活用して、SNSについてのイメージを話し合う。
- ・グループでSNSの疑似体験を行う。会話の出だしを用意して、それに続く会話を無言で付箋紙に書いて出し合う。
- ・他の班の会話をみて、よい会話と悪い会話にそれぞれシールを貼る。
- ・焦点化させたい会話を全体で共有し意見を出し合う。
- ・LINE上でのコミュニケーションについて自分の考えを出し合う。



⑤県立袖ヶ浦高等学校 第1学年 授業者 眞山 和姫

「高校生が考える小中学生向けSNS利用ポスターづくり」(情報)

本時の目標「SNSの普及に伴い、生活や学習でより効果的に活用する方法について考える」

- ・自らのSNSでの経験や生活の変化を振り返る。

- ・生活や学習での効果的なSNS利用法や注意点を考え、グループで話し合う。
- ・話し合ったことを、タブレットを活用して小中学生用のポスターとしてまとめる。
- ・各グループのポスターを全体で共有し、良かった点や改善点について話し合う。



⑥県立船橋啓明高等学校 第1学年 授業者 大橋 真也

「生活を豊かにする情報機器の使用について」 (情報)

本時の目標「スマートフォンの有効活用に関して主体的に考えることができ、将来活動に結びつけることができる。」

- ・スマートフォンやSNSによる社会問題について、その原因を考える。
- ・スマートフォンを授業で活用する方法についてグループで話し合う。
- ・自分の考えをプレゼンテーションソフトのシートにまとめる。
- ・スマートフォンが学習ツールとして有効であることを確認する。



6 検証授業のまとめ

(1) 小学校

【検証授業1】

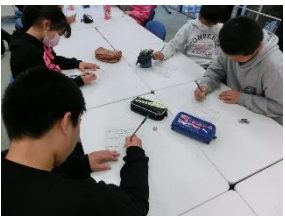
勝浦市立勝浦小学校 第6学年

平成28年12月6日(火)実施

道徳の時間 題材名「SNSでの上手な伝え合い方を考えよう」

授業者：勝浦市立勝浦小学校 教諭 高岡 顕慎

〈授業の流れ〉

過 程	学習活動	学習形態・資料
導 入	○SNSでのトーク機能やその利便性を知る。  	無料通信アプリ 模擬提示ツール（以下 提示ツール）を使ったイメージ化
展 開	○グループトークの内容について感じたことを発表し合う。   ○トーク後のトラブルやトラブルにならないための方法について話し合う。 (個→グループ→全体)  	ワークシートを活用してのグループ交流 全体での意見の共有
まとめ	○本時の学習を振り返り、まとめの感想を書く。  	ワークシートを活用した本時の振り返り

〈児童の実態と変容〉 児童数23名

○スマートフォンの利用 20名(87.0%)

○SNSの利用 17名(73.9%)

○授業後の感想より(複数記述)

- ・相手の気持ちを考えたり、言葉遣いに気を付けたりして使っていきたい。(12名)
- ・誤解が生じないように理由を付けるなど、わかりやすい言葉を使いたい。(8名)
- ・スタンプや絵文字を使い分けるなど上手に伝えていきたい。(5名)
- ・トーク機能は便利で使いやすい。連絡や会話に使っていきたい。(2名)
- ・すぐ返信するのではなく、一度考えてから送信したい。(2名)

〈成果と課題〉

- ・ SNS トークの提示ツールは、非常に効果があり、児童がイメージしながら学習できた。
- ・ どの児童にとっても身近な会話場面を素材としたことはよかった。
- ・ 提示ツールは、画面表示や操作ボタン位置、編集機能など改善されるとさらに良い。
- ・ グループ討議用にグループに会話シートがあるとよかった。
- ・ 善か悪かを問うより、登場人物の気持ちを考える方向が必要であった。
- ・ 後半に提示した吹き出しに言葉を付け加えさせるなど、具体的な作業があるとよかった。
- ・ 事前の実態調査（SNS 使用率）を生かした指導で無理がなかった。

【検証授業 2】

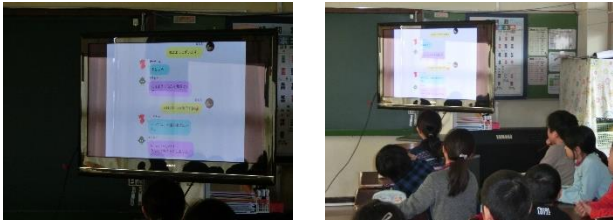
習志野市立袖ヶ浦東小学校 第5学年

平成28年10月30日（水）実施

特別活動 単元名「SNS への写真ののせ方について考えよう」

授業者：習志野市立袖ヶ浦東小学校 教諭 干村 尚穂

〈授業の流れ〉

過 程	学習活動	資料・ツール
導 入	○SNS でのトーク機能やその特性を知る。 	パワーポイント 付箋会議アプリ （担任自身の写真 掲載提示）
展 開	○クラスの集合写真をトークへ掲載することについて感じたことを発表し合う。  ○例示した写真の掲載について感じたことを話し合う。 （個→グループ→全体） 	ワークシートや小 ホワイトボードを 活用してのグルー プ交流 全体での意見の共 有
まとめ	○本時の学習でわかったことや考えたことを共有する。 	ワークシートを活 用した本時の振り 返り

〈児童の実態と変容〉 児童数31名

○スマートフォンの利用 15名（48.4%）

○SNS の利用 13名（41.9%）

○授業後の感想より（複数記述）

- ・写真を載せる場合は相手の許可を得たり，確かめたりしてから載せたい。（15名）
- ・SNSを使うときには相手の受け取り方や気持ちを考えて使いたい。（14名）
- ・写真を載せる時には，載せていい写真かいい写真かを考えてから載せたい。（8名）
- ・顔写真を載せる場合は相手がだれかを考えてから載せるようにしたい。（3名）
- ・個人情報に気をつけながら SNS を使っていきたい。（2名）

〈成果と課題〉

- ・パワーポイントでの課題提示は，児童のイメージ化・意欲化に効果的であった。
- ・ワークシートの活用により，一人一人の児童が自分の考えをしっかりと持ち，話し合いに参加していた。
- ・教材提示において“教師自身が載せたい”といった想いをより強調すると良かった。
- ・目標は，“人によって感じ方が違うことを知る”に絞ったほうが良かった。
- ・発問やワークシートが，SNS のマイナス面に偏る回答を誘導する形式であり，工夫が必要。
- ・提示する素材（画像）が，より身近であるとともに，仮定の場面でもよいので具体的で，児童が多様な感じ方をするようなものであるとよかった。
- ・SNS 使用実態の把握を事前にするすることで，提示する素材が変わるのではないか。

【2つの検証授業より】

小学校段階での SNS 利用に関する指導ポイント

（1）指導目標について

SNS 利用に関して，小学校段階では“人によって感じ方が違う”“発信（掲載）する前にして立ち止まる”ことの大切さを参加型の学習によって理解することが大切である。

（2）授業の導入について

提示ツールは，児童のイメージ化・意欲化を図るうえで非常に有効である。

（3）素材・ワークシートについて

- ①児童にとって身近であり，具体的な場면을想定した素材であること。
- ②児童の多様な考え方（感じ方）を引き出すような素材・ワークシートであること。

（4）発問・授業形態

多様な考え方を引き出すような発問・課題提示が必要である。（特に道徳の時間では，多様な価値観がぶつかり合うような授業づくりを）

（5）実態把握

SNS に関する授業では，事前の学級における実態把握が大切であり，実態に合った授業づくりが必要である。



「ちがいを意識して，楽しくコミュニケーションを

(2) 中学校

【検証授業1】

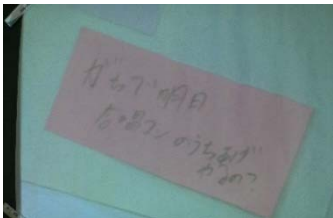
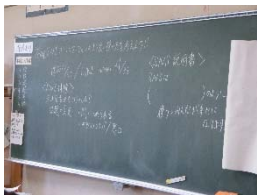
八千代市立萱田中学校 第3学年

平成28年12月5日(月)実施

目標「SNSコミュニケーションのより良い活用方法を考える。」

授業者：八千代市立萱田中学校 教諭 片桐 庸至

〈授業の流れ〉

過 程	学習活動	資料・ツール
導 入	○学級の SNS におけるトラブルの事例を紹介する。 	実物投影機
展 開	○SNS の疑似体験を行う。(事前に役割を設定し、ロールプレイングを行う。8 班中、4 班は「テストの点数」4 班は「遊び行く約束」をテーマとする。)  ○疑似体験をした会話について全体で話し合う。(会話の流れを変えた言葉を焦点化する。)  ○どんな場面でトラブルが発生しやすくなるのか話し合う。	付箋紙 実物投影機
まとめ	○SNS コミュニケーションの使用方法として、自分の考えをまとめる。 「() のように使うと皆さんを幸せにします。」 	ワークシート

〈授業後の感想より〉

- ・日本語が難しく、自分ではよいことを言っているつもりでも相手は不快に思うこともあるから相手の気持ちを理解するために自分に置き換えていやだと思ったら慎めるようにしたい。
- ・悪口のつもりで言っていなくても相手側が悪口として受け取ってしまい関係が悪くなるのが普通に話していてもよくある。顔も見えなく文字だけでやり取りする SNS は普段以上によく考えてメッセージを発信するようにしたい。
- ・自分が伝えたい言葉から伝えるのではなく相手の気持ちを考えて使っていったらよいと思う。
- ・この間の授業を終えて思ったことは、LINE などは便利だけど知らぬ間に送信したことがどこかで人を傷つけてしまう可能性があるということです。相手はどう思うのかを考えることが大切だとわかった。
- ・あまり話したこともない人でも LINE などをつかうことでコミュニケーションがとれて仲良くなったりすることもあるから、うまく使っていきたい。

〈成果と課題〉

- ・疑似体験では、予想以上に会話が活発になった。ロールプレイングで行ったために会話がしやすかったため。
- ・アニメのキャラクターになりきることで、会話の流れを悪くすることができていた。
- ・付箋紙を活用することで会話が共有でき、グループワークが活発になった。
- ・8つの班の中から、授業者がどこの会話を焦点化させるかを短時間で把握することが難しい。生徒同士で評価し合ってもよかったのではないかな。
- ・疑似体験を行うことで、言葉だけのメッセージが相手に伝わりにくいことを体感できた。
- ・振り返りをする中で、言葉が個人によって受け止め方が違うことに気付かせることができた。
- ・まとめのときに、どのようなことに気付かせたいのかより明確にする必要がある。

【検証授業2】

富里市立富里中学校 第1学年
道徳の時間 題材名

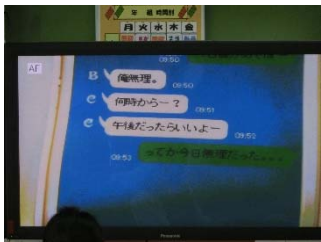
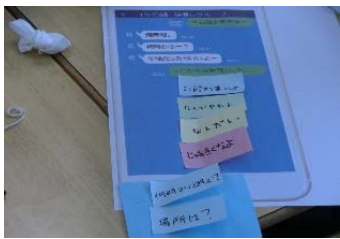
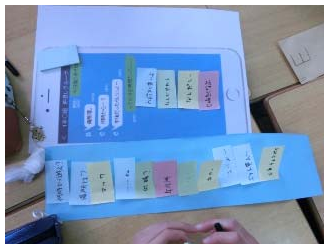
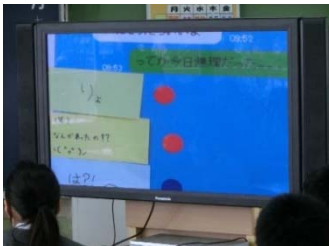
平成28年12月14日(火) 実施

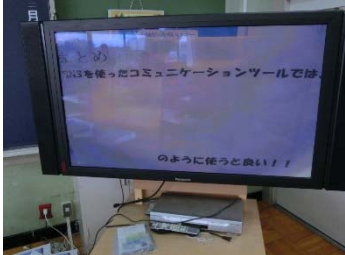
「SNS (LINE) を使った疑似体験をして SNS の利点と欠点を理解しよう」

「どのような LINE の会話が、トラブルを生むのか考えよう」

授業者：富里市立富里中学校 教諭 吉田 祐貴

(授業の流れ)

過 程	学習活動	資料・ツール
導 入	○LINE についてのイメージを話し合う。  	無料通信アプリ 模擬提示ツール
	○LINE の疑似体験をしよう。(あらかじめ、出だしの会話を用意して、それに続く会話を付箋紙に書いて出し合う)   ○トラブルの回避についてかんがえる。 (各班で、他の班の会話をみてよい会話と悪い会話にそれぞれシールを貼っていく。)   ○焦点化させたい会話を全体で共有し、意見を出し合う。 (受け取る側がどのようなメッセージか判断がつかねるものを取り上げる。)  	付箋紙 ワークシート

まとめ	○LINE 上でのコミュニケーションについて自分の考えをまとめる。  	ワークシート
-----	--	--------

〈生徒の変容〉

- ・人を傷つけないように気をつけて使おうと思った。
- ・相手の気持ちを考えて話すようにすることが大事だと思った。
- ・自分の気持ちがそのまま伝わるとは限らないということがわかった。
- ・自分も無意識に相手を不快にさせているのかもしれないと思った。
- ・相手の顔が見えないからこそ言葉に気をつけてコメントを送りたい。
- ・悪い言葉は使わないようにする。
- ・スタンプや絵文字などをじょうずに使って伝わりやすいように工夫することが大事。
- ・相手の気持ちを一番に考えて発言した方がいいと思った。
- ・自分としては軽いつもりの言葉でも相手は重く捉えているかもしれないことがわかった。

〈成果と課題〉

- ・疑似体験の場面では、生徒が日常的な会話を展開できていた。
- ・疑似体験では、会話に深まりができるように仕掛けをしていくとよいのではないか。
- ・他の班の会話を評価することで、焦点化をすることができていた。
- ・焦点化させた後に、生徒に会話を音読させても面白いのではないか。
- ・「解釈に困る言葉」を焦点化させることで、受け止め方の違いに気付かせることができていた。
- ・焦点化した後の話し合いを深めることで、個人の気づきに結びつけることができるのではないか。

【2つの検証授業より】

中学校段階でのSNS利用に関する指導ポイント	
(1) 指導目標について	SNS 利用に関して、文字だけのメッセージだけでは伝わりにくいこと。言葉の受け止め方は、個人によって異なることを気付かせていく。
(2) 授業の導入について	導入の段階で、SNS の利便性を授業者が話すことで、生徒は SNS ヘブラスのイメージで授業に取り組むことができた。
(3) 素材・ワークシートについて	付箋紙を活用した疑似体験を行うことで、受け止め方の違いを体感させることができた。 シールを活用して、会話を評価することは焦点化させる有効な手段であった。
(4) 発問・授業形態	疑似体験の後にその振り返りを行う手法とグループで体験・話し合いする形態は、生徒の主体的な学びに結びついていた。
(5) 実態把握	SNS に関する授業では、 事前の学級における実態把握 が大切であり、実態に合った授業づくりが必要である。

(3) 高等学校

【検証授業1】

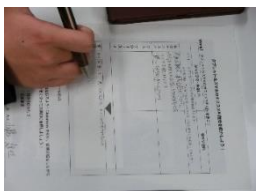
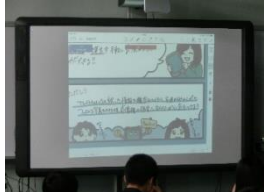
千葉県立袖ヶ浦高等学校 第1学年

平成29年1月16日(月)実施

目標「SNSの普及に伴い、生活や学習でより効果的に活用する方法について考える」

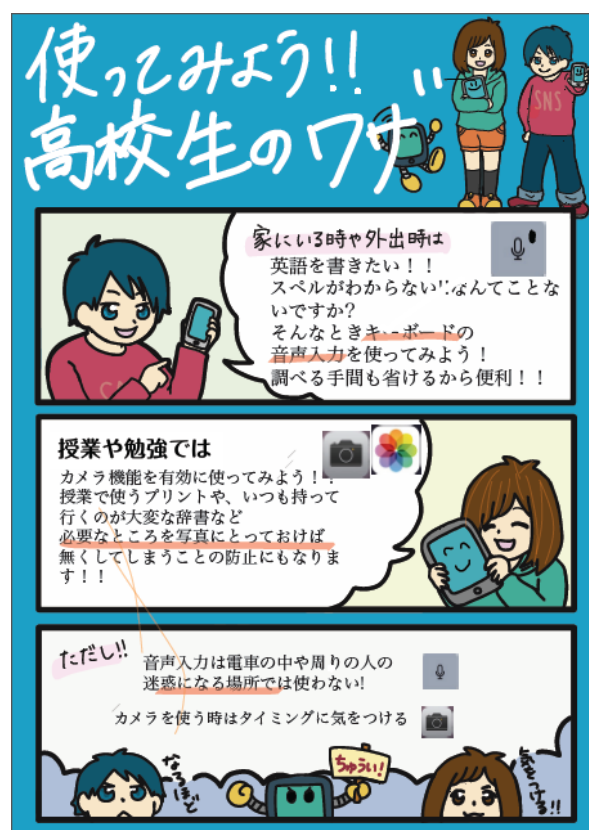
授業者：千葉県立袖ヶ浦高等学校 教諭 眞山 和姫

〈授業の流れ〉

過 程	学習活動	資料・ツール
導 入	○生徒の幼少時代と現在のIT環境を考える。  	プロジェクター 携帯電話
展 開	○小学生や中学生におすすめのスマートフォンの活用法を考えよう。個人の考えを記入する。   ○小中学生向けへの効果的なスマートフォン利用法をまとめたポスターをグループで作成する。  	ワークシート タブレット
まとめ	○各班のポスターを見て改善点を話し合う。  	プロジェクター 授業支援システム

〈成果と課題〉

- ・高校生が小中学生に伝えるという発想が良かった。生徒が作成したポスターを小中学校で掲示していきたい。
- ・ふだんからタブレットを活用している存在である。そのような生徒なのでアプリやソフトを上手に活用していた。
- ・高校生から見ると小学生は遠い存在である。中学生を対象として考えさせてもよかったのではないかな。
- ・アプリやソフトを使って「なぜ生活が豊かになるのか」の「なぜ」の部分をもさらに深める良いのではないかな。今の段階では、「生活が豊かになる」というより「生活が便利になる」という感覚である。現在一年生のこの生徒たちが三年生になった時に、「生活を豊かにする」ことに結び付けていけるか楽しみである。
- ・今後、スマートフォンを授業でもより活用が進むと思われる。そのような意味からも、よりよく使っていこうという授業は意味があるのではないかな。



【検証授業 2】

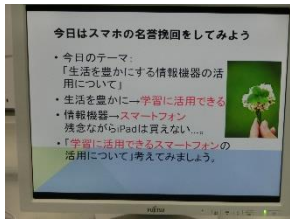
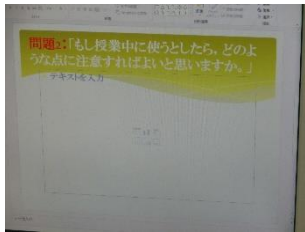
千葉県立船橋啓明高等学校 第1学年
道徳の時間 題材名

平成29年1月24日（火）実施

「生活を豊かにする情報機器の活用について」

授業者：千葉県立船橋啓明高等学校 教諭 大橋 真也

〈授業の流れ〉

過 程	学習活動	資料・ツール
練 習	○タイプ練習を10分間行う。  	パソコン
導 入	○他の高等学校での情報機器の活用の様子を紹介する。   ○スマホを授業で活用する方法について考える。  	他校の動画
まとめ	○スマートフォンが、学習ツールとして有効なものであること、それを活用するためにさまざまなことに留意していく必要があることを確認する。  	

〈成果と課題〉

- ・授業でスマートフォンを活用する授業者の実践は、学び方を変えるものである。対面のコミュニケーションではない効果的なコミュニケーションの方法を示してくれた。
- ・スマートフォンの活用は、学校での学びが家庭につながっていくを感じた。学校での学びをスマートフォンで記録して、それをもとにして家庭でも継続して学ぶことができる。
- ・生徒たちの発表では、スマートフォンのより有効的な活用についての考えがしっかりと打ち出されていた。
- ・小中学生のスマートフォンの活用は、まだ安全に使うというレベルである。今日の授業のようにより豊かな生活へという意識を広げていきたい。

7 SNS 利用に関する指導モデルプラン

(1) 小学校高学年用

①話し言葉との違いについて考える授業（45分）【特別活動】

目標：SNS のトーク機能における周りの人との考え方や感覚の違いについて知り、楽しく便利に会話をするための方法について考える。

【授業前に行うこと】

- ・事前アンケートを実施し、SNS に関する児童の実態をもとに、必要に応じて提示するトークの内容や時配を変更する。

【準備するもの】

- ・パソコン ・プロジェクタ ・スクリーン ・SNS 提示ツール（サンプル1・2入力済み）
- ・ワークシート（人数分） ※プロジェクタがない場合は、プリントアウトして拡大掲示

【授業後に行うこと】

- ・事後アンケートを実施・分析し、授業後の情報モラル指導に活用する。

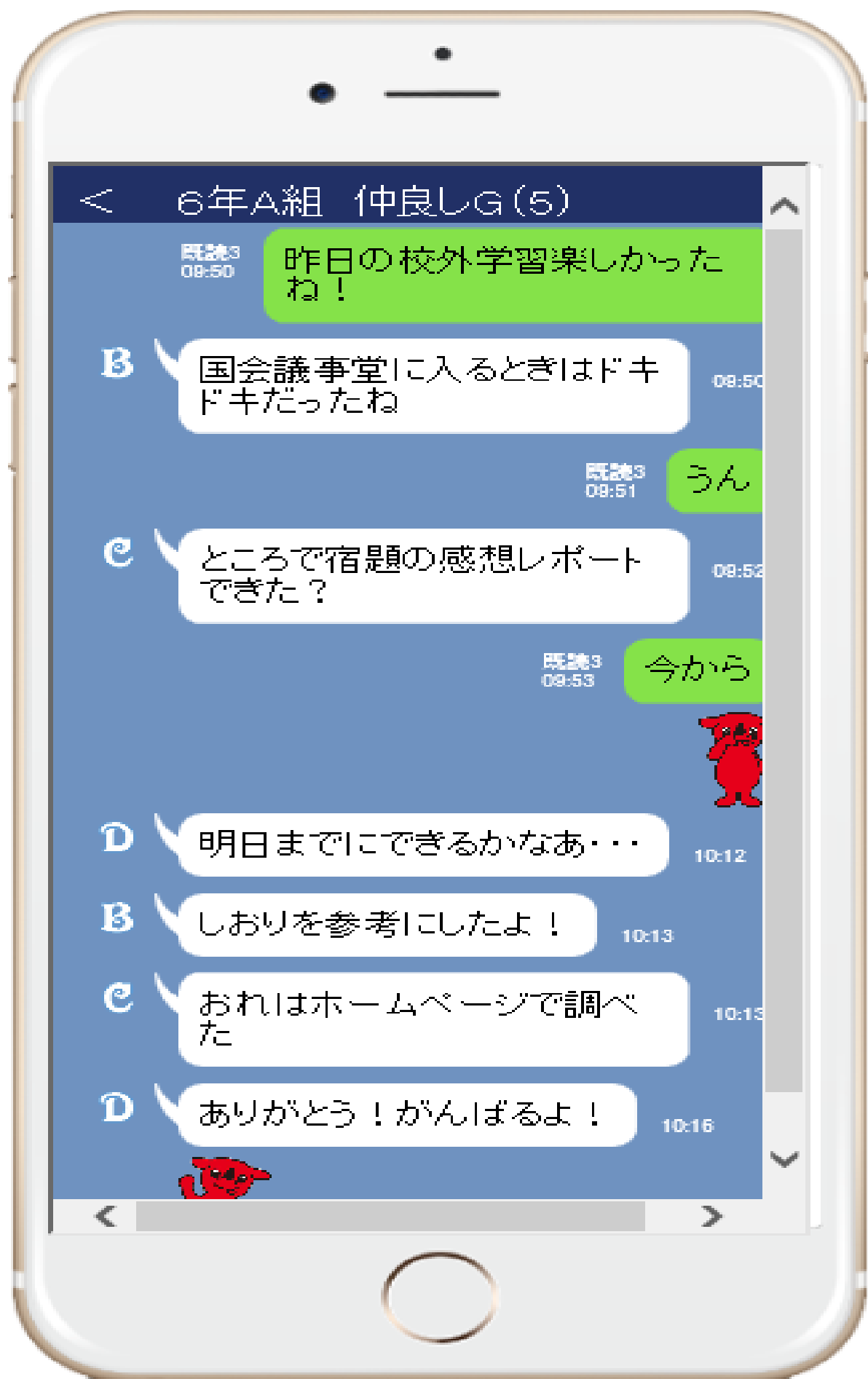
【授業の流れ】

過程	時配	学習内容と活動	指導上の留意点（○支援 ◆評価）
見い だす	5	1 SNS トーク機能について簡単な仕組みと利便性について理解する。 「SNS のトーク機能を知っていますか。」 「使ったことがある人は、どのような便利な機能があるか、また、どのようなことで困ったことがあったか教えてください。」 ※【サンプル1】提示 ・会話のやり取りが早い ・写真や動画も送れる ・相手が読んだかがすぐにわかる ・グループで会話ができる ・いろいろなスタンプが使える ・一度送ると消せない ・悪口を書かれる	○日常生活を振り返り、SNS トーク機能の便利などを出し合い、特性を共有する。 ○【SNS 提示ツール・サンプル1】を使い、使用したことがない児童でもイメージしやすいようにする。 ◆SNS のトーク機能について、大まかな特徴をおさえることができたか。（グループトーク・発信時間・既読等） 
調べ る	10	2 グループトークの様子を見せ、感じたことを発表する。 「これから、あるグループトークを紹介します。見てください。」 ※【サンプル2】を順に提示 「このグループトークで、A～Eの人はどのように感じたでしょう。気が付いたことを発表してください。」 ・Aさんがかわいそう。 ・Bさんの返事は冷たい。 ・Eさんの返事はわかりにくい。 「同じ言葉でもそれぞれの人がいろいろな感じ方をしているようですね。」 「今日は、グループトークでの上手な伝え合い方をみんなで考えましょう。」	○【SNS 提示ツール・サンプル2】を使い、身近なグループトークの例を提示し、参加している人の気持ちを発表させる。 ○「友達を遊びに誘う」という誰でも経験したことのある場面を設定し、全員が自分の意見をもてるようにする。 ○本時の学習課題を提示する。 
SNS での上手な伝え合い方を考えよう。			

深める	10	3 送り手と受け手、それぞれの気持ちについて考える。 「自分がもし登場人物の誰かだったら…と考えると、どのような気持ちのすれ違い（トラブル）が起こると思いますか。ワークシートに自分の考えを書きましょう。」 (1) AさんとBさんの間で ・Aさんの気持ち 冷たい返事で悲しい。 ・Bさんの気持ち 忙しい状況でも素早く返事をした。 (2) EさんとAさんの間で ・Eさんの気持ち 返事をしたのに返ってこない。 ・Aさんの気持ち 写真へのコメントだと思った。 「書いたことをもとにグループ（3～4人）で話し合い、気づかなかったことを付け加えたり、違うところを見つけたりしましょう。」（その後、全体で共有）	○メッセージを出した人の気持ちと、それを受け取る人の気持ちを考えさせる。 ○気持ちを考えやすいように、それぞれグループ内で役割分担するなど形態を工夫する。 ◆それぞれの立場になって考えることで、送り手と受け手の気持ちのすれ違いに気付くことができたか。 SNSでの上手な伝え方について考えよう。 姓 名 氏 名 1 グループの会話でどのような気持ちのすれ違い（トラブル）が起ると思えますか？（だれに？ どう？） 2 どうすれば気持ちのすれ違いがなく楽しく会話ができたかと思えますか？（だれに？ どうすれば） 3 楽しく便利に会話をするために必要などのようなことに気をつけましたか？
	15	4 それぞれの立場でどうすればよかったか話し合う。 「気持ちのすれ違いが起こらないようにするためには、だれが、どのようにすればよかったのでしょうか。ワークシートに自分の考えを書きましょう。」 ・言葉を考える。 「ごめん。」などを加える。 ・スタンプをつけて気持ちを表す。 ・相手のことを考える。 ・決めつけたりしない。 「書いたことをもとにグループ（3～4人）で話し合い、気づかなかったことを付け加えたり、違うところを見つけたりしましょう。」（その後、全体で共有）	○「文字だけの会話」での“伝わりづらさ”に着目させ、どこで誤解が生じたのかを考えさせる。 ○気持ちのすれ違いをなくするにはどのようにすればよいかをグループで話し合わせる。 ○必要に応じて、ツールでやり取りを提示し、全体で共有できるようにする。 ◆トラブルが起きないようなやりとりの方法について、考えを共有できたか。
まとめあげる	5	5 本時を振り返り、まとめの感想を書く。 「今日の授業では、会話の中の一つの言葉をとってみても人によって受け取り方（感じ方）が違うことがわかりましたね。それでは今日の授業やこれからの SNS の使い方について、まとめの感想をワークシートに書きましょう。」 ・楽しく便利に会話をするために、これからどのようにすればよいか考える。	○SNSでの上手な伝え合い方についてまとめ、これからの使用に生かせるようにする。 「話し言葉との違い」（伝わりづらさ） 「相手の気持ち（意図）を考える」

※提示画面（SNS 提示ツールで作成）

【サンプル1】





SNS での上手な伝え方について考えよう

年 組 氏名

- 1 グループの会話でどのような気持ちのすれちがい（トラブル）が起こると思いますか？（だれとだれが どのような原因で）

- 2 どうすれば気持ちのすれ違いがなく楽しく会話ができたと思いますか？（だれが どうすれば）

- 3 楽しく便利に会話をするためにあなたはどのようなことに気をつけますか？

②写真の投稿について考える授業（45分）【特別活動】

目標：SNS への写真投稿について、周りの人との考え方や感覚の違いについて知り、楽しく便利に利用するための方法について考える。

【授業前に行うこと】

- ・事前アンケートを実施し、SNS に関する児童の実態をもとに、必要に応じて提示する画像の内容や時配を変更する。

【準備するもの】

- ・パソコン ・プロジェクタ ・スクリーン ・SNS 提示ツール（サンプル1～4入力済み）
- ・ワークシート（人数分） ※プロジェクタがない場合は、プリントアウトして拡大掲示

【授業後に行うこと】

- ・事後アンケートを実施・分析し、授業後の情報モラル指導に活用する。

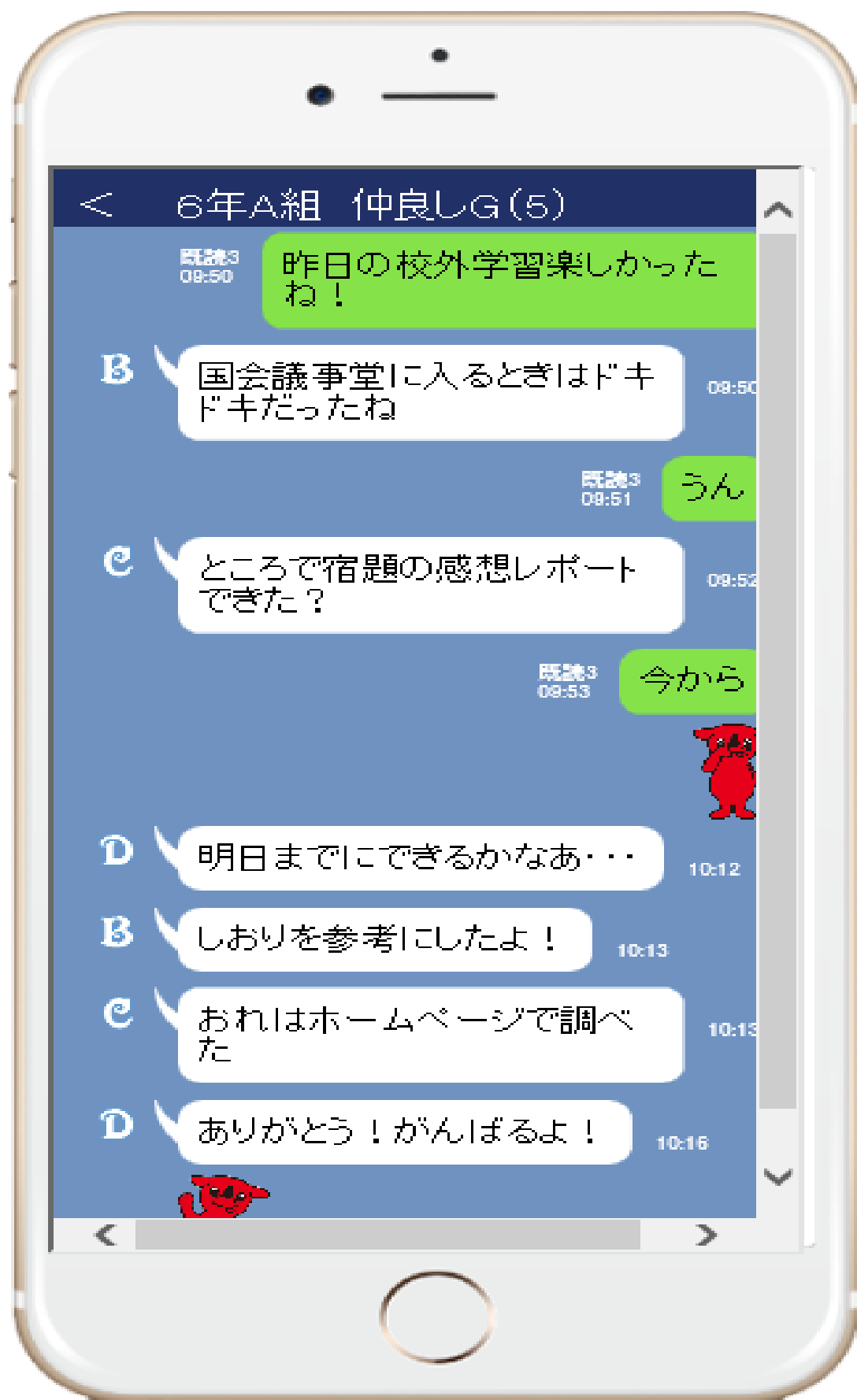
【授業の流れ】

過程	時配	学習内容と活動	指導上の留意点（○支援 ◆評価）
見いだす	5	1 SNS トーク機能について簡単な仕組みと利便性について理解する。 「SNS のトーク機能を知っていますか。」 「使ったことがある人は、どのような便利な機能があるか、また、どのようなことで困ったことがあったか教えてください。」 ※【サンプル1】提示 ○会話のやり取りが早い ○写真や動画も送れる ○相手が読んだかがすぐにわかる ○グループで会話ができる ○いろいろなスタンプが使える △一度送ると消せない △悪口を書かれる	○日常生活を振り返り、SNS トーク機能の便利などところを出し合い、特性を共有する。 ○【SNS 提示ツール】を使い、使用したことがない児童でもイメージしやすいようにする。 ◆SNS のトーク機能について、大まかな特徴をおさえることができたか。（グループトーク・発信時間・既読等） 
調べる	10	2 トークの写真を投稿できる機能についてその便利さを紹介し、提示した画像について感じたことを発表する。 「これから、あるグループトークを紹介します。見てください。」 ※【サンプル2】を提示 「このグループトークで、写真にのっている人はどのように感じたでしょう。気が付いたことを発表してください。」 ・《うれしい》 みんなに見てもらえるから 思い出になるから ・《いや》 はずかしい（自分の変な顔？） 知らない人にまで見られちゃう？ 「同じ写真でもそれぞれの人がいろいろな感じ方をしているようですね。」「今日	○写真に自分が写っていると仮定した上で、自分だったらどう感じるか考えさせる。 ○不快に感じる児童とそうでない児童の双方の意見を聞き、理由を挙げさせる。 ○本時の学習課題を提示する。 

		は、グループトークへの写真ののせ方をみんなで考えましょう。」	
		SNS への写真ののせ方について考えよう。	
深める	1 0	3 例示した写真（コメント）の掲載について感じたことを書き、グループで話し合う。 「自分がもし写真にのっていたら・・・と考えて、どのように感じますか？ワークシートに自分の考えを書きましょう。」 ・楽しかったことを伝えたい ・顔が写っていなければOK ・自分はいいけど、友だちはどうだろう ・ほかの人や場所がわかってもいいの？ ・どんな人が見るかな？ 「書いたことをもとにグループ（3～4人）で話し合い、気づかなかったことを付け加えたり、違うところを見つけたりしましょう。」	○一人一人が自分の考えをもって話し合いに参加できるようワークシートを用意する。 ○3～4人のグループで意見を交流する。 ◆自分と異なる感じ方をする児童がいることを理解することができたか。 
	1 5	4 話し合ったことを全体に発表する。 「グループではそれぞれの写真について、どのような意見が出ましたか。発表してください。」 「出た意見について皆さんはどう思いますか。発表してください。」 ・自分はいいなと思っても、もしかしたらいやだと思える人もいるのかもしれないな。 ・顔が見えなければよいと思う。学校のHPも後ろからの写真が多いよ。 ・友だちに確認してから載せればよいよ。	○自分のグループの話し合いでは出てこなかった感じ方を知り、人によって様々な受け取り方をすることを実感させる。 ◆みんなが便利に楽しくトークするための写真の載せ方について、考えを共有することができたか。
まとめあげる	5	5 本時を振り返り、まとめの感想を書く。 「今日の授業では、同じ写真でも人によって感じ方が違うことがわかりましたね。それでは今日の授業やこれからのSNSの使い方について、まとめの感想をワークシートに書きましょう。」 ・SNS に写真をのせる時はどのようなすればよいか考える。 ・今後の自分の SNS 利用について考える。	○写真を投稿する際には、載せる前に一度考えることが大切であり、SNS の安心安全な活用につながることに気づかせたい。 ・「イヤな写真」や「公開してもよい写真」は、人によってちがう ・自分は公開してもよい写真だと思っても、相手は公開してほしくない場合がある

※提示画面（SNS 提示ツールで作成）

【サンプル1】



【サンプル2】



SNS への写真ののせ方について考えよう

年 組 氏名

- 1 下のような写真に自分や友達が写っている（自分で写した）としたら，SNS にのせますか？

（のせる○ どちらともいえない△ のせない×）



()

理由



()

理由



()

理由

- 3 SNS に写真をのせて，楽しく便利に会話をするためにあなたはどのようなことに気をつけますか？

【例示画像サンプル】

※児童の実態に応じて、ワークシートの画像を差し替えて活用してください。



大雨で近所の家が大変・・・



自分でお弁当作ったよ！



5組仲良しグループ！



家族で花見に行ったよ！



たかしの家でゲーム大会中！



誕生日にお祝いしてもらったよ！

SNS 利用アンケート

年 組 氏名

1 あなたは自分専用の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。(どちらかに○)
() 持っている () 持っていない

2 1で「持っている」と答えた人に聞きます。

携帯電話やスマートフォンをどのようなことに使いますか。よく使う順番に最大5つ選んで書いてください。

・通話 ・メール ・インターネット ・ブログ ・ゲーム ・ショッピング
・SNS (LINE・Twitter・Instagram など) ・音楽 ・その他

① () ② () ③ ()
④ () ⑤ ()

3 あなたはSNS (LINE・Twitter など) を使っていますか。(どちらかに○)
() 使っている () 使っていない

4 3で「使っている」と答えた人に聞きます。

どのようなサービスを使っていますか。(使っているものすべてに○)

() ^{ライン}LINE () ^{ツイッター}Twitter () ^{インスタグラム}Instagram

() ^{フェイスブック}Facebook () ^{ミクシィ}mixi () ^{グリー}GREE

() ^{グーグル プラス}Google+ () その他



5 3で「使っている」と答えた人に聞きます。(どちらかに○)

サービスを使ってトラブルにあたり、困ったりしたことはありますか。

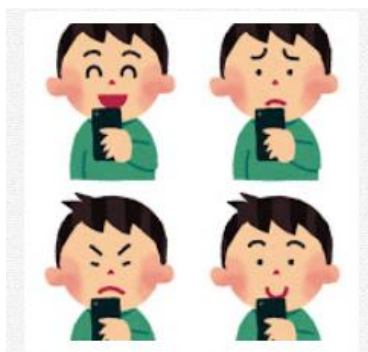
() ある どんなことですか ()
() ない

6 SNSについて、知りたいことや思っていることがあれば、自由に書いてください。

情報モラル授業を終えて

年 組 氏名

LINE などの SNS はとても便利なものです。これからどのように利用していきたいと思いますか。自由に書いてください。



(2) 中学校用

SNSコミュニケーションのより良い利用方法について考える (50分) 【特別活動】

目標：SNSのグループトークを疑似体験し、より良いコミュニケーションについて考える。

【授業前に行うこと】

- ・事前アンケートを実施し、SNSに関する生徒の実態をもとにグループトークのテーマを決めておく。

【準備するもの】

- ・ワークシート
- ・付箋紙 (4色)
- ・丸形シール (2色)
- ・SNS提示ツール (印刷でも可)
- ・コミュニケーションカード (SNS提示ツールに始めのセリフが入ったものをA3版に印刷した紙 (班に1枚))

- ◆パソコン
- ◆実物投影機
- ◆プロジェクタ
- ◆スクリーン

※ ◆は事前に掲示物を作成していれば不要

【授業後に行うこと】

- ・事後アンケートを実施・分析し、授業後の情報モラル指導に活用する。

過程	時配	学習内容と活動	指導上の留意点 (○支援 ◆評価)
見い だす	5	1 SNSの利用状況・イメージ・便利な使い方・トラブル事例などを確認する。 「SNSという言葉を知っていますか。SNSの一つであるLINEを使ったことがある人は手をあげてください。」 「(活用している生徒に) 良い点を悪い点をあげてください。」 ・グループで会話ができる。 ・相手が読んだかがわかる。 ・会話が気まづくなるときがある。 ・悪口が書かれる。	○提示ツールを利用し、SNSでのグループトークを視覚的に理解させる。 ○SNSの利用状況を挙手で確認し、長所や短所などを大まかに発表させる。
調 べ る	10	2 SNSでのグループトークを疑似体験する。(4人1組) 「SNSは便利な面もあれば、困ってしまう場合もあるようです。今日はグループトークでの会話についてみんなで考えましょう。」 SNS でのコミュニケーションについて考えよう。 「4人組になるように机を移動してください。」 「色違いの付箋と付箋を貼るシートを配ります。」(シートはSNS提示ツールの画面を印刷してもよい) 「今日は、付箋を使って会話をしましょう。会話中は無言です。」 付箋を使ってトーク画面の続きを行う。 (例) <u>部活動について</u> 「今度の土日は二日とも試合だって」 「やった～！」 「どっちか一日休みにしてほしいな」 「自分の時間もほしいよね」 「強くなるにはたくさん試合しないと」	○本時の学習課題を提示する。 ○テーマ・始めのセリフは、学級の実態に応じ、全班共通あるいは複数提示する。 ○最初の文の発信者を決めておく。 ○相談せずに、無言で付箋を貼るよう指示する。 ※実態に応じて、アニメのキャラクターなどになりきってロールプレイング形式にすると意見が出やすい。 ※実物投影機を使った時に見やすいようにペンで書かせると良い。 ○この段階では不適切なセリフについて教師は指導しない。



SNS グループトーク画面

深める	1 5	「○○ちゃんはレギュラーだからな」 ☆「いいよね」 ☆「まあ、いいか」 ☆「よくね」 ☆は複数の解釈が考えられるもの。 3 できあがったものを他の班と交換して評価する。 「どのような会話となったか。他の班と交換してみましょう。」 「雰囲気が悪くするセリフには赤のシール、それ以外のセリフには青のシールを貼りましょう。」	付箋が貼られたコミュニケーションカード ○机間指導をして、解釈が複数考えられるものや、会話の流れを変えるセリフをチェックする。
	5	4 他班が評価した会話を元の班に戻す。いくつかのセリフを焦点化し、どのように受け止めたかを問う。 「このセリフは赤と青の両方のシールが貼られています。みなさんは、このセリフについてどう思いますか。」 5 いくつかを取り上げ全体で話し合う。 「なぜ、このセリフは受け止め方が異なるのでしょうか。」 ・字だけの表現だと伝わらないのではないかな。 ・複数の受け止め方ができる表現だったのではないかな。 ・受け止め方は人によって異なるなあ。	両方のシールが貼られたセリフに着目 ○両方のシールが貼られているセリフに着目させ、それぞれの受け取り方（感じ方）について意見を出させるようにする。 ○「文字だけの会話」での“伝わりづらさ”に着目させる。 ◆送り手と受け手の気持ちのすれ違いに気付けたか。 ○なぜ、気持ちのすれ違いが起こったのかを考えさせる。 ○雰囲気が悪くなるような表現についての改善策を出させる。（赤で書き加える。） ○不適切だと印を付けた班と会話を作成した班とに会話を読み上げさせ、比較させる。 ○発表を聞きこれに対する意見を求める。 ◆多様な受け取り方があることを知ることができたか。
まとめあげる	5	6 SNS上でのより良いコミュニケーションについて考え、まとめをワークシートに書く。 「今日の授業を終えて、これからどのようにSNSを使っていきたいですか。自分の考えをまとめましょう。」 ・言葉の受け止め方が違うので、相手に分かるように伝えたい。 ・相手の気持ちをよく考えて受け止めていきたい。	○生活を豊かにするための便利な道具としてSNSコミュニケーションツールをとらえ、どのように利用していきたいかを書かせる。 ◆「話し言葉との違い」（伝わりづらさ） 「相手の気持ち（意図）を考える」ことが共有できたか。 SNSでのコミュニケーションについて考えよう。 姓 前 氏名 SNSでのコミュニケーションでは、 するといい。 ワークシート

SNS 利用アンケート

年 組 氏名

- 1 あなたは自分専用の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。(どちらかに○)
() 持っている () 持っていない

- 2 1で「持っている」と答えた人に聞きます。

携帯電話やスマートフォンをどのようなことに使いますか。よく使う順番に最大5つ選んで書いてください。

・通話 ・メール ・インターネット ・ブログ ・ゲーム ・ショッピング
・SNS (LINE・Twitter・Instagram など) ・音楽 ・その他

① () ② () ③ ()
④ () ⑤ ()

- 3 あなたはSNS (LINE・Twitter など) を使っていますか。(どちらかに○)
() 使っている () 使っていない

- 4 3で「使っている」と答えた人に聞きます。

どのようなサービスを使っていますか。(使っているものすべてに○)

() ^{ライン}LINE () ^{ツイッター}Twitter () ^{インスタグラム}Instagram
() ^{フェイスブック}Facebook () ^{mixi}mixi () ^{GREE}GREE
() ^{グーグル プラス}Google⁺ () その他



- 5 3で「使っている」と答えた人に聞きます。(どちらかに○)

サービスを使ってトラブルにあったり、困ったりしたことはありますか。

() ある どんなことですか ()
() ない

- 6 SNSについて、知りたいことや思っていることがあれば、自由に書いてください。

【コミュニケーションカード】（例）



- ①実態に応じて、会話のテーマを決め、「構成グループ」「始めのセリフ」を設定する。
- ②SNS 提示ツールで、①の内容を入力し、A3版でプリントアウトする。
- ③班に1枚ずつ配付し、生徒は会話の続きをこのカードに付箋で貼っていく。

【ワークシート】

SNS でのコミュニケーションについて考えよう。
年 組 氏名
SNS でのコミュニケーションでは, すると良い。

【事後アンケート】

情報モラルの授業を終えて
年 組 氏名
LINE などの SNS はとても便利なものです。これからどのように利用していきたい と思いますか。自由に書いてください。

1 操作方法

SNS 提示ツールのフォルダを開くと、右のデータが表示される。利用するのは、①index.htmlである。

index.html を開く（ダブルクリックする）と、スマートフォンの画面と、左側に S, 1～10 のボタンが表示される。

※ ブラウザの起動時、メッセージが表示されることがあります。提示ツールの利用には、ブロックされているコンテンツを許可(A) をクリックする必要がある。



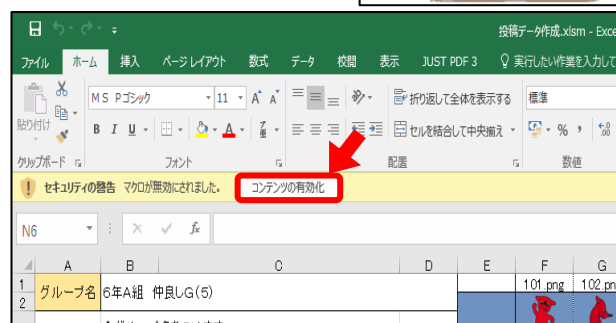
表示された S, 1～10 のボタンを利用して、表示させる会話を選択することができる。順番に押して会話を進めたり、特定の場面を表示したりすることも可能である。F11 で全画面表示になる。



2 Excel の起動

表示する会話を変更するために利用するのが②投稿データ作成.xlsmである。

ファイルを開くと、設定によっては「セキュリティの警告」が表示されることがあるが、コンテンツの有効化をクリックする。起動した Excel の画面は、X・Y・Z の3つのエリアに分かれている。



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
グループ名	6年A組 仲良しG(5)				101.png	102.png	103.png	104.png	105.png	ezazu1.jpg	ezazu2.jpg
		↑グループ名をつけます。									
表示順	発言者	発言内容	発言時刻	画像無し	元気!	ごめん	びっくり	怒っている	泣いている	画像1	画像2
1	A	ひまな人、遊ぼう!	9:50	●	○	○	○	○	○	○	○
2	B	むり	9:50	●	○	○	○	○	○	○	○
3	C	私も	9:51	●	○	○	○	○	○	○	○
4	D	お出かけ中	9:52	●	○	○	○	○	○	●	○
5	E	いいね	9:53	●	○	○	○	○	○	○	○
6				●	○	○	○	○	○	○	○
7				●	○	○	○	○	○	○	○
8				●	○	○	○	○	○	○	○
9				●	○	○	○	○	○	○	○
10				●	○	○	○	○	○	○	○

実行

※背景色・文字色の変更後は、F9を押して再計算してから 実行

設定	対象
既定	画面背景色・既読表示色
文字	グループ名文字色・背景色
発言	←吹き出し(自分)
発言	吹き出し(他の人)

上の塗りつぶしの色を変更すると、画面の背景色が変更されます。
フォントの色を変更すると、画面の文字色が変更されます。

セルの移動(切り取り→貼り付け)をしないでください。
コピー→貼り付けは大丈夫です。
編集可能な場所以外は選択できない設定になっています。
入力・設定が完了したら **実行** ボタンをクリック
このシート 以外はさわらないでね。

3 グループ名・発言内容等の変更

- ① 変更を利用するエリアは、である。グループ名や発言内容等を変更する。
発 言 者…A は自分の発言であり、右からの吹き出しに対応。B・C・D・E は自分以外の発言で左からの吹き出しに対応（既読数の計算にも利用）。
発言内容…選択すると自動的に日本語入力になる。長い文字列にも対応。
発言時刻…時刻形式で入力すると、xx:xx の形式で表示される。
- ② 発言内容の変更が終了したら、ボタンをクリックすると、表示している会話に変更され、index.html に反映される。
- ③ 会話が長くなると、自動的に画面の右側・下側にスクロールバーが表示され、表示エリアをスクロールすることができる。

4 スタンプ・画像の利用

- ① チーバくんのスタンプや画像を設定するエリアはである。発言ごとに表示利用したいスタンプ又は画像を、ラジオボタンを利用して1つのみ選択できる。
- ② 選択した画像は、ボタンをクリックすると反映され、発言の吹き出しのすぐ下に表示される。
- ③ 発言者を入力（選択）して、発言内容や発言時刻を入力せずにスタンプや画像のみを表示させると、発言内容に 0、発言時刻に 00:00 が表示される。

5 デザインの変更

- ① デザインの変更を利用するエリアは、である。（必要がなければさわらない。）
- ② 設定の列にある「既読」・「文字」・「発言」のエリアでそれぞれの背景色や文字色を設定することが可能である。（標準色に戻すためのボタンも用意してある。）
- ③ 文字色や背景色を設定後、を押してから、ボタンをクリックすると、反映される。
- ④ ブラウザで、最新の情報に更新をすれば、設定した文字色や背景色に変更される。（会話のコントロールのボタン, ～では反映されない。）

6 作成した会話の保存と印刷利用

会話の保存は、Excel のブックを保存することで行う。保存の条件は以下の通りである。

- ① 保存するファイル名は、投稿データ作成.xlsxm を変更しても良い。
- ② SNS 提示ツールのフォルダの直下（名前を付けて保存で最初に表示される場所）に、「Excel マクロ有効ブック(*.xlsxm)の形式」で保存する。
- ③ 作成者：千葉県総合教育センター を変更しない。
- ④ Excel のブックは SNS 提示ツールフォルダ内にいくつあっても良い。

保存した Excel の各ブックで実行ボタンを押すと、そのブックに設定されている会話や設定がブラウザに反映される。展開を考えてあらかじめ提示する内容を用意できる。

なお、教室にパソコン等が用意できない場合には、提示した会話を印刷し利用する。

このマニュアルは、マクロやインターネットの仕組みがわかる人向けです。

(応用編)

7 フォルダ構成とツールの仕組み

① css フォルダ

cascading style sheets を利用して、レイアウトやデザインを設定するのに利用している。

- ・css1.css は起動した画面全体の設定
- ・style02.css はスマートフォン内部の画面設定

投稿データ作成.xlsm でデザインを変更すると、style02.css に反映する。

② html フォルダ

S, 1～10 のボタンをクリックしたときに表示する html ファイルを保存している。それぞれ、lone0.html～line10.html に対応している。

③ images フォルダ

表示に利用する画像を保存している。

- ・101.png～105.png……………スタンプに利用するチーバくん
- ・a.png～e.png……………発言者のアイコン
- ・gazou1.jpeg・gazou2.jpeg…写真
- ・smartphone.png……………スマートフォンの枠

④ js フォルダ

会話表示のボタンをコントロールする JavaScript ファイルを保存している。

8 Excel の設定

投稿データ作成.xlsm は「入力」シート以外は非表示に設定してある。

非表示のシートは次のような役割がある。

- ・「設定」……………表示させる会話や既読数の計算、文字色や背景色の設定をする
- ・「0」～「10」…0.html～10.html を作成するためのシート
- ・「css」……………画面の表示設定用の style02.css を作成するためのシート

Vba の標準モジュールに文字色・背景色を設定するユーザ定義関数と html・css をそれぞれのフォルダ内のデータに上書きするマクロが設定してある。また標準色に戻すマクロも設定してある。マクロ実行時は、非表示シートを表示してからデータの書き込み等を行い、マクロ終了時にシートの非表示を設定している。

各非表示のシートでは、関数を利用して html を作成するテキストデータを作成している。吹き出しは、html で div を利用して css 側で設定している。

9 画像の変更

画像の変更をする必要がある場合には、著作権や商標権等の配慮をしたうえで変更することができる。images フォルダに用意してある png 画像や jpeg 画像を、名前を変更せずに上書きすることで、表示させる画像を変更可能である。ただし、a.png～e.png は横幅をスマートフォン画面の 10%（約 31px）に、101.png～105.png と gazou1.jpeg・gazou2.jpeg の高さは 100px に固定してある。

画像データは、拡張子まで含めて全く同一にする必要があるので、変更する際には png 形式や jpeg 形式での保存を意識する。なお、投稿データ作成.xlsm の入力シートに表示されている画像は、images フォルダ内の画像を変更しても連動はしないので、Excel 上で、図の変更をするなどして対応することが必要となる。

変更してしまって元に戻せない場合やきちんと動作しなくなった場合には、千葉県総合教育センターの配布サイトから再度ダウンロードして利用することを勧める。

10 複数の会話の比較表示

SNS 提示ツールのフォルダを（名前を変えて）複数用意して、それぞれのブラウザの画面を並べて表示することで会話の比較が可能となる。表示画面を変更するために Excel を利用する際は、同じ名前のブックは同時編集できないので、違う名前に設定して起動する必要がある。

基本的には、デスクトップにフォルダを作成して SNS 提示ツールを利用することを想定しているが、ネットワークドライブなどにフォルダをあらかじめ用意して利用することもできる。

11 児童・生徒に会話を考えさせて提示

上記の設定を利用することで、児童生徒に個人やグループで会話を作成させて、画面上に表示させることができる。Excel が導入されていることが前提ではあるが、SNS 提示ツールのフォルダを児童（生徒）が利用するパソコンのデスクトップに配信させて利用させるなどである。投稿データ作成.xlsm のブックの保存名を作成した個人やグループ名にして提出させ、教師の利用するパソコンの SNS 提示ツールのフォルダで利用すると、児童生徒が作成した会話を提示することができる。

12 提示ツールの改変等について

SNS 提示ツールは、千葉県総合教育センターが調査研究事業の一環として開発したものである。教育利用に関しては、改良・改変を自由に行って良いが、商用利用については、その全てを認めない。

また、著作権等については、千葉県総合教育センター及びツール開発者であるカリキュラム開発部メディア教育担当と画像提供者が有するものである。

なお、提示ツール内で利用している画像については、著作権・商標権等に配慮したもののみを利用している。

終わりに

平成27年度に本研究で行った調査において、小学生でも約6割の児童がスマートフォンを所持していることがわかった。機器の発達・普及により、よりコミュニケーションが便利になる一方でトラブルも発生している。しかし、危険について学ぶ機会が少ない。このような実態をもとに、本研究は出発した。

生まれた初めて持つ情報端末がスマートフォンという世代が広がっている。この流れは、今後も加速していくことが確実である。この利便性の高いスマートフォンの使用を制限するのではなく、児童生徒により良い活用法を学んでほしい、そして、それを自分の豊かな生活に役立ててほしい。そんな願いをもとに研究を進めた。

担任の先生方が、SNS 利用に関する指導を行っていくためにはどうしたらよいか。そのような問いを筑波大学准教授・鈴木佳苗先生に方向性を示していただいた。「具体的な場面を設定して生徒に考えさせる指導をしてほしい」「グループで体験し、話し合いをする活動を取り入れてほしい」そのようなご指導を具現化するために、研究協力員の先生方と協議を行い、実践授業を重ねた。その実践授業をもとに小中学校におけるモデルプランを完成することができた。また、高等学校における実践では、スマートフォンの有効な活用法を長中学生にポスターという形で示していただいた。また、スマートフォンの学習での活用という、一歩進んだ研究の成果を示していただいた。

完成したモデルプランは、現場の先生方にご提示したところ、「情報モラルの授業へのハードルが下がって、やってみようという気持ちになった」という感想を多くいただいた。今後、このモデルプランをもとに SNS 利用に関する指導が広く行われていくことを願ってやまない。

最後に、本研究には多くの方のご尽力があった。筑波大学准教授鈴木佳苗先生、研究協力員の先生方、アンケートにご協力いただいた多くの先生方に感謝の意を申し上げます。

千葉県総合教育センター研究報告第425号

テーマ 生活を豊かにするためのSNS利用に関する指導法の研究

研究対象校 小学校・中学校・高等学校

研究領域 情報教育

調査により、県内児童生徒のスマートフォンや携帯電話ならびにSNSの利用実態を把握する。

調査結果をもとに、小学校・中学校・高等学校それぞれにおけるSNS利用に関する指導法について、授業実践を通して明らかにする。

SNS利用に関する指導について、指導案・教材・ツールを開発し、モデル指導プランとしてまとめ、公開する。

【検索語】 小学校，中学校，高等学校，情報教育，情報モラル教育，SNS，スマートフォン，携帯電話

研究報告 第425号

平成29年3月31日

編集責任者 千葉県総合教育センター
所長 安藤 久彦

発行所 千葉県総合教育センター
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番
TEL 043(276)1166
FAX 043(272)5128
